

## 沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想(2)

— 主要著作『新しい絵あそび』の分析を中心に —

宇 田 秀 士 奈良教育大学美術教育講座 (美術教育学)

### SAWANOI's Practical Concept of Art Education Utilizing the Idea of "Play" (2) : Centering on the Analysis of "New Picture-Oriented Play", Principal Literary Work of Nobuo SAWANOI (1916-1990)

UDA Hideshi

(Department of Fine Arts Education, Nara University of Education)

#### Abstract

This paper constitutes part of the continuous research work on the concept of art education of Nobuo SAWANOI (1916-1990). In the previous paper (Part 1), his brief personal history was compiled to explore the background of his idea of art education, followed by empirical examination of his literary as well as art works.

This research work mainly features analysis of the contents of "New Picture-Oriented Play", which is SAWANOI's principal literary work in the field of art education and was published in 1956, to explore his idea of art education. A list of 105 themes was prepared and these themes were then classified into 10 categories of activity based on their contents, works referred to, authors referred to, etc. The category related to abstract art and patterns as "configuration of a form" and "creation of a pattern or picture by drawing lines", etc. accounts for some 33% of the total pages dealing with various themes. This relative prominence of the category relating to abstract art and patterns is inferred to have originated from such facts that SAWANOI formative study under Saburo HASEGAWA (1906-1957), the entry of his works to exhibitions of *Jiyu Bijutsuka Kyokai* and his work at the publication and design desks of Daimaru Department Store. Meanwhile, the category of "viewing and appreciation of art works" accounts for some 22% of the total pages. This category includes suggestions and stimulation to lead to various artistic activities in addition to the pure appreciation of art works. In short, this book is summarized as a collection of ideas for approachable art themes, skillfully linking the art and design culture of his time to "play", an ingredient of the daily life of children.

キーワード：美術教育, 沢野井信夫, 「あそび」

Key Words: art education, Nobuo SAWANOI, "play"

#### 1. はじめに

本稿は、沢野井信夫(1916-1990)の美術教育の構想に関する継続研究の一報である。筆者は、これまで美術教育における「遊び」概念の総括のため、第二次世界大戦後の関西地方を中心とした美術教育実践の展開を考察してきた<sup>(1)</sup>。そして、その関連文献・資料を探る中で、沢野井の活動が視野に入ることとなった。

沢野井は、造形作家・デザイナー・編集者として活躍し、「あそび」を冠した美術教育に関わる題材集を出版した。多彩な活動の中で、交友関係も広く教育現場との交流も窺われる。沢野井は学校現場に直接関わった人物ではないが、一連の「あそび」著作は、自らの芸術体験をふまえた美術教育の構想と捉えることができる。前稿では、沢野井の美術教育構想の背景や基盤について、氏の略歴を作成し、発表著作や作品をふまえて実証的に考

察した。

その結果、赤松麟作（1878-1953）、長谷川三郎（1906-1957）への師事を経ての新文展・日展及び自由美術家協会展覧会への出品などの創作活動、児童書の表紙絵・挿絵制作、大丸大阪店での出版やデザインの業務、それらを通じての人的交流が構想の基盤としてあり、第二次世界大戦後の民間美術教育運動がその背景としてあることを確認した<sup>(2)</sup>。

1956（昭和31）年に大阪 創元社より刊行した子ども向けの『新しい絵あそびー造形ノート』（A5判相当）は、その内容構成からみて、上記の沢野井の軌跡が基盤としてあることが窺われる。抽象絵画やデザイン作品、美術文化などが多数紹介され、題材に結びつけられている<sup>(3)</sup>。本稿では、前稿を補足する形で沢野井の軌跡について実証的に探究するとともに、氏の美術教育構想における主要著作とも言える『新しい絵あそび』の内容分析を行い、その構想の一層精緻な考察を行う。

## 2. 沢野井の発表著作や所蔵作品など

前稿でも沢野井の著作、編集著作、関連著作、所蔵作品、アーカイブ作品を示したが、誌面の制約から割愛した部分があった。沢野井の軌跡をふまえての美術教育の構想を探る上で、本稿では現時点で把握している全てを示す。

### 2.1. 著作、編集著作、関連著作

著作、編集著作、関連著作は、以下のようになる<sup>(4)</sup>。勤務先の大丸大丸出版社からの出版物の企画・編集・装幀、児童関係書の表紙絵・挿絵、「あそび」関連の著作など創元社からの出版物、美術専門雑誌への寄稿、句集・詩画集への作品提供などがある。

#### 1940年代

- ・1940年9月 澤野井信夫編著『戦争のさんぶん詩』谷口印刷所（大阪）（日中戦争での体験を綴ったものと考えられる。）
- ・1947年10月-1948年5月 編集人 沢野井信夫『ら・ふあむー女性文化誌』2号、3号、大丸印刷（大丸出版印刷）
- ・1948年 沢野井『透明少年ーピストル消える町』あやめ書房
- ・1948年10月 里見勝蔵『画魂』大丸出版社（沢野井 企画）
- ・1948年10月 『こども朝日』第10巻第8号（通巻275号）、朝日新聞社（表紙 沢野井）
- ・1948年12月 ゲーテ、渡邊格司 訳『キルヘルム・マイスターの演劇的使命』大丸出版（装幀 沢野井）
- ・1949年2月 長谷川三郎「新人を語る 沢野井信夫」『アトリエ』265号、アルス、pp.40-41.
- ・1949年10月 沢野井「近代様式化ー秋の美術展から」『生活科学』2（10-11）、pp.15-18.

- ・1949年 武田幸一 著、沢野井 絵『二年生の童話 まほうのみせ』昭和出版
- ・1949年 平塚武二著、松島一郎 絵、沢野井 表紙『三年生の童話 おうさまのこうま』昭和出版
- ・1949年 久保喬著、沢野井 表紙・挿絵『三年生の童話 りんごのゆくえ』昭和出版

#### 1950年代

- ・1950年4月 沢野井「幽霊は科学が嫌いー本誌表紙の解説に寄せて」『生活科学』3（4）、pp.22-24.
- ・1955年2月 詩 小野十三郎、エッチング 泉茂、沢野井、装幀 早川良雄『詩画集 大阪』（部数限定）
- ・1955年 河村良子著、沢野井ら 絵『大阪の昔ばなしと童話集』創元社
- ・1955年 ツカダキタロー 原作、十河和康 脚色、沢野井 絵『赤いはね（紙芝居）』教画出版（生活指導教画シリーズ；第2集7）
- ・1956年1月 俳句 山口誓子、エッチング 沢野井・泉茂 装幀 早川良雄『壁画：句画集』壁画刊行会（部数限定）
- ・1956年8月 「び・い・ぶ・る（芸術家通信）花柳章太郎、品川工、沢野井、福井美智、矢橋六郎、酒井亜人、大森明恍、奥野信太郎、藤島泰輔、松山善三、承戸俊雄、木村莊十二、戸田邦雄、伊藤京子、公卿圭子、邦正美、仲谷昇、杉村春子」『藝術新潮』7（8）、新潮社、pp.54-57.
- ・1956年8月 沢野井『新しい絵あそびー造形ノート』創元社（1966年版以降、副題は「デザイン実習基礎併用」に変更）
- ・1956年 大西重孝・吉永孝雄 編解説、三村幸一 写真、沢野井 装釘『文楽 文楽フォト・シリーズ1』文楽座出版部（大阪市）
- ・1957年5月 沢野井「サロン・ド・ノメエー古酒（えと文）」開高健編集『洋酒天国』13、洋酒天国社、pp.45-46.
- ・1957年 沢野井「一モダンアート指導者の死」『藝術新潮』8（5）、新潮社、pp.276-278.
- ・1957年 落合聰三郎、内山嘉吉著、沢野井 画『児童演劇』第3号（5・6月合併号）、日本児童劇作家協会
- ・1957年 長谷健、粉川光一著、沢野井 画『児童演劇』第4号（7月号）、日本児童劇作家協会
- ・1957年 藤田圭雄、大木直太郎著、沢野井 画『児童演劇』第5号（8月号）、日本児童劇作家協会
- ・1957年 沢野井 画『児童演劇』第6号（9月号）、日本児童劇作家協会
- ・1957年 八田元夫 著、野村敏夫著、沢野井 画『児童演劇』第7号（10月号）、日本児童劇作家協会
- ・1957年 阿貴良一 編、岩佐氏寿、北村学著、沢野井 画『児童演劇ー特集 演劇教育白書』第8号（11月号）、日本児童劇作家協会
- ・1958年 秋田雨雀、吉岡たすく著、沢野井 画『児童演劇 小学1年から6年生までの座談会』第2巻第2号、通巻第10号（2月号）、日本児童劇作家協会



・1958年12月 沢野井『石にたずねる』創元社

## 1960年代

- ・1960年12月 沢野井『版画のいろいろ－版画あそび』創元社
- ・1962年7月 「び・い・ぶ・る 沢野井、林洋子、仲代達矢、土方久功、入野義郎、岡鹿之助、近藤弘明、馬場彬、川村英司、宮口精二、佐藤潤四郎、汐見洋」『藝術新潮』13（7）、新潮社、p32-33.
- ・1963年 沢野井「表紙の作家・早川良雄のこと」『デザイン DESIGN』No.42（1963年1月号）、美術出版社、p.47.
- ・1964年6月 沢野井「〈私の好きな石〉＜9＞－石のとりこ」『日本美術工芸』通巻309号、日本美術工芸社、pp.34～35.
- ・1966年 沢野井「振子の球にたくして－デザインの伝統と創造《デザインをめぐる諸考察》」『デザイン DESIGN』NO.91（1966年12月号）、美術出版社、pp.20-23.
- ・1968年1月 山川清、沢野井『カラーブックス 名画に見る裸婦の世界』保育社
- ・1968年3月 沢野井『造形のあそび：現代美術の創造』創元社

## 1970年代

- ・1974年 前田陽子著、北山広一 装幀と表紙カバー、沢野井 挿絵『旅のおしゃべり－海外とびある記－』あずさ書房発行、三彩社発売
- ・1977年 楠本憲吉 句、沢野井 え、野の会・二科編『床花トコバナ』限定版、詩通信社
- ・1979年 池内はじめ著、沢野井 カット『温石－大連の落日－』大湊書房

## 1980年代

- ・1986年8月 澤野井編集『詩と版画 特集号－澤野井信夫作品集』詩と版画社（ABCギャラリーでの個展を機に特集）
- ・1986年 楠本憲吉 句、沢野井 絵『画俳同源 印刷色紙10枚』
- ・1989年9月 沢野井「あざみの歌」保坂喜美編『誇り高き哲人－追悼保坂富士夫』創元社、pp.88-89.
- ・刊行年不明 広瀬道子 詩、沢野井 え『日吉台幻想』

## 2.2. 所蔵作品、アーカイブ作品

以下の版画作品が、美術館所蔵作品、アーカイブなどで確認できる。

＜大阪・国立国際美術館所蔵作品＞および＜大阪中之島美術館コレクション 所蔵作品＞<sup>(5)</sup>

- ・1955年『詩画集 大阪』（部数限定 詩 小野十三郎、エッチング 泉茂、沢野井、装幀 早川良雄）  
（『美術手帖』Vol.7 No.94（1955年5月号）に紹介記事。）

＜大阪・国立国際美術館所蔵作品＞

- ・1955年 沢野井「貨物列車」エッチング、アクアチント、紙
- ・1955年 沢野井「妖精の翅」エッチング、アクアチント、紙
- ・1955年 沢野井「大怪魚」アクアチント、紙

＜慶應義塾大学アートセンター /アーカイブ＞<sup>(6)</sup>

- ・1956年 タケミヤ画廊「No.2 銅版画 展 1956.1.4-10」（アーカイブno.01.162）瑛九、浜口陽三、泉茂、加納光於、加藤正、駒井哲郎、南桂子、沢野井、関野準一郎、上野省策、〔野中ユリ〕

上記版画作品に関連した事項として、沢野井は、1960（昭和35）年に『版画のいろいろ－版画あそび』を創元社より出版した。同書「むすび」で沢野井は、泉茂（1922-1995）には銅版画を、吉原英雄（1931-2007）には石版画を、前田藤四郎（1904-1990）には木版画の技法について、それぞれ学んだことを記した。

このうち泉は、大阪市立工芸学校図案科を1939（昭和14）年に卒業し、大丸大阪店の宣伝部装飾課に勤務した。そして第二次世界大戦後に復員し、1945年9月に大丸に復職した。この頃、大丸文化部にいた沢野井、阪急百貨店宣伝部にいた山城隆一（1920-1997）らと交友があった。1949年6月には、泉、沢野井、須田剋太（1906-1990）、津高和一（1911-1995）、早川良雄（1917-2009）ら15名で「会ヴァリエテ」の結成をした。月1回程度の会合を開き、自由討論によって新しい洋画の在り方を追求しようとしたという。翌年3月に大阪大丸店にて第1回展を開催した<sup>(7)</sup>。

泉は、1947年に大丸を退職し制作に専心するが、瑛九（1911-1960 杉田秀夫）と久保貞次郎（1909-1996）の勧めがあつて、1953年10月頃にエッチングを始めた<sup>(8)</sup>。沢野井は、この泉から学び、上記の『詩画集 大阪』（1955年）に掲載のエッチングを制作したと言える。1956年8月には、大丸大阪店にて、大阪、神戸の版画家たちが新しい版画運動を起こそうとして「版画6人展」を開催したが、メンバーは、沢野井、泉、上野長雄（1904-1974）、川西英（1894-1965）、川西祐三郎（1923-2014）、前田藤四郎であった<sup>(9)</sup>。

また、上記の久保貞次郎が発会メンバーである民間美術教育運動団体の創造美育協会については、泉は同人展参加（1955年2月 同協会埼玉支部主催）、「大阪創美5月の集い」講師（1955年5月 大阪泉尾幼稚園）、リトグラフ・エッチング講習会講師（1956年4月 同協会大阪支部主催）、創造美育全国セミール参加（1956年8月 創造美育セミール 長野 上山田、1958年8月 創造美育セミール 神戸 有馬温泉）などの関わりがあった<sup>(10)</sup>。

## 3. 『新しい絵あそび』について

### 3.1. 出版の経緯

『新しい絵あそび』出版は、沢野井が病氣療養中に構想し、療養所で療養仲間やその家族を相手に試行した内容を全快祝いの席で披露したのが契機であった。朝日新聞大阪本社学芸部 村松寛（1912-1988、のちに大阪芸術

大学名誉教授)の斡旋により、朝日新聞「日曜子ども欄」に発表し、さらに小学生毎日新聞に「色あそび」という題目で発表した。同書は、これらに未発表内容を加えて刊行した<sup>(11)</sup>。

この書は、「むすび」の部分が第1刷から10年後の1966年5月にあらためて書かれた版が出るが、この「むすび」の改訂と連動して、副題が「造形ノート」から「デザイン実習基礎併用」へと変更された。さらに、最初の刊行から19年後の1975年4月に書かれた改訂版「むすび」のある第11刷が1975年5月に刊行された。この「むすび」は、1966年版と比べ日付などの最低限の修正にとどまっているが、この第11刷では従来版にあった第135頁の「本の中の絵」が「ホモ・ルーデンス」へと差し替えられた。

この差し替えの要因として1963(昭和38)年のJ.ホイジンガ(Johan Huizinga 1872-1945)『ホモ・ルーデンスー人類文化と遊戯』邦訳刊行(原著は1938)、1970年のR.カイヨワ(Roger Caillois 1913-1978)『遊びと人間』邦訳刊行(原著1958年)の影響もあったのではないかと推察した<sup>(12)</sup>。

### 3.2. 内容構成

目次には、[宮武辰夫(1892-1960)の序(1頁分)と久保貞次郎の序(2頁分)]、[[「題材」108項目(130頁分)]、[[遊びと生活](4頁分)]、[[本の中の絵]/「ホモ・ルーデンス」(1頁分)]、[[むすび](1頁分)]が示された。「遊びと生活」では、子供たちの作品を紹介しながら、それまでの「題材」では取り上げなかった「絵あそび」として、紙芝居、絵巻物などを記した。

このほかに目次にはないが、[宮武、久保の序]の前に[カラー口絵(4頁分)]があり、関連する造形作家の作品、沢野井の試作作品などが掲載された。さらに、これも目次には示されていないが、[[「題材」108項目]第96頁から第97頁の間にノンブルが付されていないモノクロ写真頁が4頁ある。[[「ねんどのうえに絵をかきましょう」(大阪学芸大学附属小学校で)]、[[「はくらの、わたしらの美術館(大阪・生魂小学校)」、[[三角、円、四角をかいてボール投げ、じぶんのすきな絵をかいて]、[[よって、たかって <手がだるいよ> 土のおだんごがおもくなってきた]のキャプションがそれぞれ付いた4頁である。

モノクロ写真頁の第1、2頁のキャプションに「大阪学芸大学附属小学校」「大阪・生魂小学校」が記されているのが興味深い。晩年の1986年8月に大阪ABCギャラリーでの個展を機に刊行した『詩と版画 特集号-澤野井信夫作品集<山脈での出会い>』は、沢野井の幅広い交友関係を窺い知ることができる。同書には、サクラクレパス社 浜口良蔵(後に同社相談役)との交流が記された<sup>(13)</sup>。サクラクレパス社は、メセナ(mécénat)活

動を長年行っており、同社の浜口を介して大阪の学校現場と繋がっていた可能性を感じさせる。

[[「題材」108項目]のうち、第1頁の最初の項目は、「この絵あそびノートは」と題し、本著作の趣旨がある。絵や工作が苦手な子供、デザインや模様づくりに苦戦しているその家族に役立つように編まれたことが述べられている。そして、子供の家族である洋裁学校や茶道に通う姉、編み物や手芸をする母、造形を研究する父や兄、絵の先生にも馴染んで欲しいと記された。さらに同書にある「新しい造形の方法」は、決して難しいことではなく、「“あそび”の中から出発すること」を証明したいと語っている。

また第36-37頁の二つの項目では、奈良 油坂盲学校の子供作品など「身体障害者児童作品展」を紹介した。大きな壺や色とりどりの千羽鶴作品などの画像が挿入され、彼ら/彼女らの造形表現の魅力を伝えている。

これら3つの項目を除いた「第2頁 四角を二つに」から「第130頁 マッチ(箱)づくり」の105項目が実質的な「題材」となっている。もちろん「題材」と言っても、学習指導案や指導書のような形になっているわけではなく、白黒画像を挿入し、家庭でも気軽に楽しめるような「題材」アイデア集のような形である。しかし、そのアイデアは学校教育でも取り入れられる可能性のある内容であり、ここでは「題材」として稿を進める。

### 3.3. 口絵第1頁 ソニア・ドローネーとジャン・ルピアン

口絵頁の第1頁には、ソニア・ドローネー(Sonia Delaunay-Terk 1885-1979)とジャン・ルピアン(Kurt Gottfried Johannes Leppien 1910-1991)の作品画像を関連「題材」頁を明示する形で掲載した。自由美術家協会展覧会への出品、長谷川三郎への師事から沢野井には国内外の抽象絵画作品への素養があったと考えられる。ただし、2人の作品から刺激を受けて「題材」が生まれたのか、「題材」構想が先にあり関連する造形作品を選んだのかは明らかではない。

このうちS.ドローネーは、夫のロベール・ドローネー(Robert Delaunay 1885-1941)とともに、詩人ギヨーム・アポリネール(Guillaume Apollinaire 1880-1918)が「キュビスムの画家たち」(1913年)で命名したオルフィスム(Orphism)の代表的な作家<sup>(14)</sup>として、円環形の色面による絵画構成を行なった。ウクライナに生まれ、ドイツ・カールスルーエやフランス・パリのアカデミー・ドゥ・ラ・パレットで学んだ後、造形作家活動を行った。絵画だけではなく、舞台衣装のデザイン(1918年、ロンドンで再演の「クレオパトラ」など)、装飾とモードの「カーサ・ソニア」の仕事(1918年から)、建築のインテリア・デザイン(1919年、スペインのマ

ドリード、ビルパオの建築など）に活動を広げていった<sup>(15)</sup>。

沢野井がS.ドローネー作品を選択した理由は明らかではない。S.ドローネーが夫のR.ドローネーと共に、1929年から1940年までパリに滞在した岡本太郎（1911-1996）<sup>(16)</sup>と交流があった<sup>(17)</sup>ことや上記のように彼女は絵画の発想を服飾やインテリアの仕事に拡げていて、沢野井の目に留まりやすかったのかもしれない。

口絵作品は、3つの円環、曲線、矩形を合わせた色面構成で、キャプションでは「ドーナッツ、浮袋、タイヤ、地球、レール」と称した。第20頁「まるの遊び」、第58頁「まるをふくらませる、まるをちぢませる」、第63頁「一分間で」、第104頁「四角の輪」（キャプションには401頁と示されているが誤植）と関連することが明示された。

一方、J.ルピアンは、ドイツに生まれ、デッサウのバウハウスでヨゼフ・アルバーズ（Josef Albers 1888-1976）、ワシリー・カンディンスキー（Wassily Kandinsky 1866-1944）、パウル・クレー（Paul Klee 1879-1940）に学んだ。彼の主な研究は、幾何学的形態と色の分析だった。1933年にナチスドイツを離れてパリに向かい、第二次世界大戦後に帰国したが、抽象的で幾何学的な仕事を続けた<sup>(18)</sup>。

口絵作品は、帯状の直線が縦、横、斜めに引かれ、そこに黄色、紫色、黒、灰色などによって色面構成がなされている。帯の幅は長短があるが、幅があるので、交差の部分にも色面ができるようになっている。また中央部分には、曲線が一本あり、アクセントとなっている。

キャプションでは、定規を使って直線を好きなように引き、太い直線、細い直線を組み合わせて、色面構成すると美しい模様になると解説している。また、曲線が一つあると動きが出ることにもふれた。第8頁「一壘へ二壘へ三壘へ」、第93頁「旗」、第117頁「あたりまえの絵」、第128頁「箱の中の線」と関連することが明示された。

沢野井がJ.ルピアン作品を選択した理由もS.ドローネー同様に不明である。ただ注目すべきは、『新しい絵あそび』では、両者の作品と関連すると考えられる抽象的な絵や模様を扱った「題材」が多く見られることである。これについては第4章で詳しく述べる。

### 3.4. 口絵第2、3、4頁

口絵第2頁には、大丸大阪店「水曜クラブ」造形グループ作品の端切れを使ったパッチワーク（patchwork）作品画像を2枚掲載した。そして第92頁「くらしの工夫」と関連することが明示された。長方形の作品と正方形の作品が掲載され、キャプションには古くなった着物、羽織、エプロン、シャツを四角や長四角に切り好きなように厚紙の上に貼り付けるという解説がある。

大丸大阪店で毎週水曜日に開催された「水曜クラブ」は、「婦人のための講習室」（華道、料理など）から発展し、沢野井が担当者であったという<sup>(19)</sup>。「水曜クラブ・ホール」では、「詩と造型展」（1955年2月）も開催され、沢野井のほか、安西冬衛（1898-1965）、小野十三郎（1903-1996）らの詩、沢野井、泉茂、須田剋太、早川良雄、吉原治良らの「造型」が展示された<sup>(20)</sup>。「大丸こども会」もあったようで、ここで制作された作品画像も挿入されていることが「本のなかの絵」（第135頁）に記されている。

口絵の第3頁にも2枚画像がある。上部には、糊に緑の粉絵の具を混ぜて画用紙に「アイスクリームのようにポタリと」落として、フィンガーペイントした痕の画像がある。第19頁「いたずらゴッコ」と関連することが明示された。また下部には、好きな形を鋏で切って色を塗った作品の画像がある。アルファベットのような文字をバラバラに分解したような形（黒）を中央に配置して、その背景のように赤色、茶色、薄い桃色の色面を配置した。第98頁「布のはり絵」、第99頁「はり紙、きり紙」と関連することが明示された。

口絵の第4頁にも2枚画像がある。上部は沢野井の作で、シュルレアリスムの「自動筆記法（オートマティスムAutomatisme）」の要領で、筆で自動車のように自由に走り回る軌跡を描き、間に色を塗って模様になっている画像がある。第9頁「線の自動車」、第10頁「お空に馬がかけていく」と関連することが明示された。下部には、布に蠟で三角、四角、長四角形、円を描き、染料に浸して蒸し、アイロンを当て白い跡が残る臍縷染めのテーブル掛けの画像がある。第118頁「窓ガラスに絵」と関連することが明示された。

### 3.5. 宮武と久保の序

沢野井は、宮武辰夫（1892-1960）を「むすび」にて大阪創美（創造美育協会）の一人と紹介して謝辞を述べた。宮武は、香川県高松市の出身で1915（大正4）年に東京美術学校（現東京藝術大学）を卒業し、1916年から1917年まで函館高等女学校教師を務め、1919年から1921年まで原始美術研究のため世界各地を行脚した。

第二次世界大戦後は宮武幼年美術研究所所長として幼稚園において保育実践研究を行なった。1950（昭和25）年に兵庫県西宮市聖和女子短大講師となり、大阪基督教短大講師、北陸学院短大講師も務めた<sup>(21)</sup>。序では『新しい絵あそび』の魅力について、「（幼年教育関連の）連日の講演に疲れきった私を、夜更けの三時過ぎまで、息もつがせず読みおわらせた」と記している。

久保貞次郎は、栃木県足利市に小此木家の次男として生まれた。1933年に東京帝国大学を卒業して同大学院に進学したが、同年11月結婚により久保家の婿養子とな



り、久保と改姓した。1935年に日本エスペラント学会の九州特派員として九州各地をまわり、宮崎で杉田秀夫（後の瑛九）に出会い、現代美術への興味を深め、以後瑛九を通じて造形作家たちと交遊を持つにいたった。

1952年3月の座談会を経て、同年5月に創造美育協会の発会に参加した。第二次世界大戦後の民間美術教育運動の出発点に関わっている。また評論家、収集家として主に現代版画の振興に尽くし、既にふれた瑛九、泉茂、吉原英雄のほかに北川民次（1894-1989）、池田満寿夫（1934-1997）らとの交友が深かったという。ヴェネツィア・ビエンナーレ（Venice Biennale）の日本代表（1966年）、跡見学園短期大学学長、町田市立国際版画美術館館長などを務めた<sup>(22)</sup>。

序では、学校の教師ではない沢野井のような自由な画家という立場で通知表のない自由な雰囲気を作り出し、指導することで良い実践が生まれるとした。久保は「水曜クラブ」や「大丸こども会」などでの沢野井の教育実践をふまえているように感じられる。そして「あそび」の教育的意義にふれた後で、同書が広く読まれることで窮屈な図工という範囲から「解放」され、子供の自然な姿と結びついた美術教育を予見した。

沢野井は、宮武や久保の創造美育運動に直接関わったのかどうかは、明らかではない。その沢野井の著作の序に宮武、久保の序がある理由としては、沢野井が造形作家・デザイナー・編集者として活躍し、多彩な活動の中で、交友関係も広がったであろうことが挙げられる。阪神間の幼稚園を中心に幼年美術教育実践指導を行なった宮武との接点は容易に想像ができる。

これに対して久保とは、一見すると、接点が見つかりにくい。創元社並びに編集部の保坂富士夫（1910-1987）を通じての交流が生まれた可能性がある。保坂は、画家山本鼎（1882-1946）の従兄弟であるが、アトリエ社勤務を経て1950年5月に創元社（大阪市）に入社した<sup>(23)</sup>。創元社は、1953年に久保との関係が深い北川民次の『子どもの絵と教育』を刊行している。また、既にふれたように沢野井の版画創作活動の仲間であり師でもある画家の泉茂が久保と近い関係だったこともその理由として考えられる。

#### 4. 『新しい絵あそび』の「題材」（105項目）

##### 4.1. 「題材」の類別

実質的な「題材」105項目（127頁分）について整理したものが、表1-表6の『新しい絵あそび』題材内容1-6である。登場順に題材番号を付け、掲載頁を示し、内容の概略には、登場する作品や作家、カラー口絵との関連の有無を記した。

また、題材内容をふまえ、以下のように筆者が類別し、

「題材名」の下に示した。ただし「題材」は、複数の活動内容が含まれているものもあり、厳密な整理にはならないが、おおよその傾向は示せると考えた。括弧〔〕内は、表1-6上での略称である。

- （1）形を構成する活動〔構成〕
- （2）形を構成し、描く活動〔構成・描画〕
- （3）直線や曲線を描いて模様や絵にする活動〔線描・模様〕
- （4）みる活動や作品などの紹介（鑑賞）〔みる〕
- （5）認知機能を活性化するゲーム的な活動〔認知・ゲーム〕
- （6）偶然性を活かした活動〔偶然性〕
- （7）写実的な表現につながる活動〔写実〕
- （8）版を使った活動〔版〕
- （9）立体的な造形作品をつくる活動〔立体造形〕
- （10）材料を工夫した活動〔材料〕

次節で、（1）～（10）の類別ごとに5-6程度題材を選び見ていくが、そこで用いている図1-1から図10-2は、『新しい絵あそび』での内容とそこに挿入された白黒画像をふまえて、今回新たに試作したものである。

##### 4.2. （1）形を構成する活動〔構成〕

「（1）形を構成する活動」は、切断した形や物そのものを画面に配置することが中心となる活動である。以下の12題材（17頁分）で、題材総ページ数（127頁）に占める割合は約13.4%である。

No.1（第2-3頁）、No.2（第4-5頁）、No.12（第16頁）、No.28（第44-47頁）、No.49（第69頁）、No.52（第72頁）、No.53（第73頁）、No.63（第88頁）、No.72（第97頁）、No.73（第98頁）、No.74（第99頁）、No.80（第105頁）

No.1「四角を二つに」（第2-3頁）は、四角形を任意に二つに切り分け（図1-1）、複数のそれを組み合わせる活動（図1-2）であり、さらに食パンや落ち葉に応用させた（図1-3）。三角形、円なども対象とすることや三つ、四つに切り分けることに発展させることができる。またバラバラにした



図1-1 No.1 四角を二つに

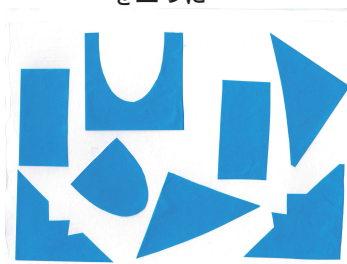


図1-2 No.1四角を二つ 構成



図1-3 No.1四角を二つ 枯葉



表1 『新しい絵あそび』 題材内容 1

| 題材No.<br>(頁) | 題材名<br>[類別]           | 内容, 登場作品, 登場作家, 関連口絵   |
|--------------|-----------------------|--|
| 1<br>(2, 3)  | 四角を二つに<br>[構成]        | 四角形を任意に二つに切り分け, 複数のそれを組み合わせる活動。食パンや落ち葉に応用させている。三角形, 円なども対象とすることや三つ, 四つに切り分けることに発展させることができる。またバラバラにした形を元に戻すゲームもできる。No.1-2は「一単元」と考えられる。  |
| 2<br>(4, 5)  | 円を二つに<br>[構成]         | 円を任意に二つに切りわけ, それを組み合わせる活動。また二つに分けた円をさらに二つに分け構成する活動もある。ビニルの買い物袋, 毛布の端切れ, 模様のある布, スポンジ, プリキなど円にする材料も紹介した。さらに, 日曜大工の家具作りや調理における大根や茄子の切り方への応用にも言及した。   |
| 3<br>(6, 7)  | 線の絵あそび<br>[線描・模様]     | 紙に複数人で任意に線を引くことで模様ができてくる活動。マッチ棒を使った模様。紙に複数人で線を描き, 色を塗る活動。ブックカバーや舞台の背景に応用。No.3-No.7は「一単元」として考えられる。  |
| 4<br>(8)     | 一塁へ二塁へ三塁へ<br>[線描・模様]  | 紙の上で野球のボールを投げた後の軌跡を定規で描く活動。さらに線ができたら色で塗り分け模様にする活動。同様に, スケートで滑る線を描き, 色を塗る活動。口絵のジャン・ルビアン (Jean Leppien 1910-1991) 作品と関連づけ。フェルナンド・レジェ (Fernand Léger 1881-1955) 風の作品画像を挿入。98頁「布の貼絵」では, ここに出てくる「自動筆記法 (オートマティスム Automatism)」を発展させることが示されている。 |
| 5<br>(9)     | 線の自動車<br>[線描・模様]      | 自動車のように自由に走り回る軌跡を描き, 色を塗って模様にする活動。何も浮かんでこない時には, 「自動筆記法」を使い, 見立て活動ができる。口絵の沢野井「線の自動車」試作作品に関連付け。  |
| 6<br>(10)    | お空に馬がかけてゆく<br>[みる]    | 輪ゴムの集まり, 針金の曲がった形, 地面に適当に描いた線, 雲などから見立てる鑑賞活動。口絵の沢野井「線の自動車」試作作品に関連付け。   |
| 7<br>(11)    | 叱られて<br>[みる]          | 怖い顔, 笑っている顔, 優しい顔の「へのへのもへの (へのへのもへじ)」を小石にクレヨンで描く活動。落がき的な線描の楽しさを伝えている。  |
| 8<br>(12)    | お池に石を投げました<br>[線描・模様] | 池に石を投げた時の波紋や木の年輪に注目させた。木の年輪を水彩絵具の滲みの技法で描く活動や線描で年輪や波紋のように中心から周りに向けて同じ形を意識して「同心円」状に広げていく活動。  |
| 9<br>(13)    | 記憶テスト<br>[認知・ゲーム]     | ○, ▽, □などを任意に並べたカードを作成しておき, それを覚えさせ, 記憶力を試す競争的な活動。最初は三つの形から始め, 数を増やしたり, 形を複雑にするなど難易度を上げていく。  |
| 10<br>(14)   | 右と左と<br>[みる]          | 微妙に変化をつけた人物の写真を2枚撮影しておき, その写真2つの違いを見つける活動。No.9-11で一つの「単元」と考えられる。   |
| 11<br>(15)   | この手は誰の手<br>[みる]       | No.10の答えのほかトランプカードでの記憶遊び活動。レジェの『サーカス』<トランプ> (1950, リトグラフ) 画像を挿入。認知機能を活性化させるゲーム的な活動の要素も含まれる。  |
| 12<br>(16)   | なんにもすることない<br>[構成]    | 「なんにもすることない」ときにやれる活動を紹介。本, 筆箱, 消しゴムなどを机上に並べて構成する活動。No.12-14で一つの「単元」と考えられる。   |
| 13<br>(17)   | することたくさん<br>[みる]      | No.12を受けて「することたくさん」とあるというコラム的な内容。お弾きの軌跡を描く活動, 切った画用紙を組み立てる活動などを紹介。   |
| 14<br>(18)   | 自由な大人<br>[みる]         | 「自由な大人」は, ○, ▽, □など構成した作品を作ったり, 切り紙をしたり, 杉板に墨を塗って塀のように組み合わせたりすることを紹介。大丸百貨店の包装紙らしき画像を挿入。  |
| 15<br>(19)   | いたずらゴッコ<br>[偶然性]      | 糊に色を混ぜて, お餅のようについたり, 指で引き描きしたりして, 指絵 (フィンガーペインティング) する活動。口絵の「フィンガーペインティング」作品と関連付け。   |
| 16<br>(20)   | まるの遊び<br>[構成・描画]      | コンパス, 糊の蓋などで円をたくさん描き, 模様や絵を描く活動。口絵のソニア・ドローネー (Sonia Delaunay 1885-1979) 作品と関連付け。   |
| 17<br>(21)   | 球<br>[写実]             | ピンポン玉, 地球儀, ボールなど球状のものを見つけ, 光をあて陰影を観察し, 描く活動。描いたボール大の円を遠ざけて, どこまで見えるか確認する活動など。   |

## \*1 類別の略称

[形を構成する活動=構成] [形を構成し, 描く活動=構成・描画] [直線や曲線を描いて模様や絵にする活動=線描・模様]

[みる活動や作品などの紹介 (鑑賞)=みる] [認知機能を活性化させるゲーム的な活動=認知・ゲーム] [偶然性を活かした活動=偶然性]

[写実的な表現につながる活動=写実] [版を使った活動=版] [立体的な造形作品をつくる活動=立体造形] [材料を工夫した活動=材料]

表2 『新しい絵あそび』 題材内容2

| 題材No.<br>(頁)  | 題材名<br>[類別]                                | 内容, 登場作品, 登場作家, 関連口絵   |
|---------------|--|--|
| 18<br>(22-31) | 版画<br>[版]                                  | 22頁 紙版を作りクレヨンで擦り出す活動。/23頁 擦り出し, 拓本。/24頁 切紙版画, 霧吹き版画。/25頁 マックス・エルンスト (Max Ernst 1891-1976) の擦り出し (フロタージュ) 作品紹介。/26頁 虫めがねで太陽の光を集め焦がした版画。/27頁 イモ版, 木版, 擦り出し。パブロ・ピカソ (Pablo Picasso 1881-1973) のリトグラフ, パウル・クレー (Paul Klee 1879-1940) の引き掻き絵, 泉茂 (1922-1995) のエッチングを紹介。/28頁 銅版画 (エッチング) の紹介。/29頁 版画に関わる作品を紹介 (14世紀のヨーロッパの木彫レリーフ, 中国の剪紙, イースター島の石像レリーフ)。/30-31頁 謄写版版画, 日光写真, ガラス絵版画などの紹介 (大阪 山滝小学校児童作品)。 |
| 19<br>(32)    | 写真機いらない写真<br>[版]                           | 懐中電灯を使った印画紙版画の活動。<br>No.18-20は, 沢野井『版画のいろいろ-版画あそび』(創元社, 1960年) に引き継がれる。  |
| 20<br>(33)    | 政子ちゃんの工夫<br>[版]                            | 印画紙版画。材料として, くしゃくしゃにしたセロファンやガラスコップをあげ, それらを動かした感じも示した。マン・レイ (Man Ray 1890-1976) 作品画像を挿入。   |
| 21<br>(34)    | 同じ形の模様<br>[みる]                             | 線でできた模様 (バルコニーの垣, エルヒティオンという古城の内陣壁装飾), 円や三角を切り抜いたセルロイドの物差しの紹介し, 鑑賞する活動   |
| 22<br>(35)    | モビール<br>[立体造形]                             | モビール作り。アレクサンダー・カルダー (Alexander Calder 1898-1976) の作品画像挿入。<br>No.22,32など「立体造形」題材は, 沢野井『造形のあそび-現代美術の創造』(創元社, 1968年) に引き継がれる。   |
| (36-37)       | ヘレンケラー財団主催「身体障害者児童作品展」に出品された奈良 油坂盲学校 の子供作品 |  |
| 23<br>(38)    | 水のはんが<br>[偶然性]                             | 墨汁などを用いて墨流し (マープリング) する活動。できた作品を選択し, 別の絵に構成する活動。版画の性格もある。  |
| 24<br>(39)    | 使う絵<br>[構成・描画]                             | 円, 四角, 三角などを構成して描く絵の活動。レオン・ポー・スミス (Leon Polk Smith 1906-1996) の「コの字形」を組み合わせた幾何学的な抽象作品画像を挿入。  |
| 25<br>(40-41) | 運動する絵<br>[偶然性]                             | 吹き流しの絵。アンリ・ミショー (Henri Michaux 1899-1984) 作品画像, 顕微鏡で見た画像, 岸壁に描かれた絵の画像を挿入。  |
| 26<br>(42)    | 卵と角砂糖の話<br>[写実]                            | 卵や角砂糖のような色がなく単純な形態ほど写生が困難なことをアンリ・マチス (Henri Matisse 1869-1954), モーリス・ド・ブラマンク (Maurice de Vlaminck 1876-1958) のエピソードをふまえて紹介。  |
| 27<br>(43)    | 絵になる材料<br>[写実]                             | Np.26を受けて写生のモチーフとして, お手玉, ボール, 石, くるみ, 貝, 風船を紹介。<br>No.26-27で一つの「単元」と考えられる。  |
| 28<br>(44-47) | 模様づくり<br>[構成]                              | 44頁 スプーンと栓抜き, 輪の中に小さな四角を入れた形, 石垣のような形などを組み合わせて構成する活動。/45-47頁 石垣, 服地などの類似点を紹介。服飾デザイナーの作品の紹介。観察することの大切さを説く。  |
| 29<br>(48)    | 右と左がおなじ絵<br>[偶然性]                          | 紙を折り片方に絵の具をつけてあわせる「合わせ絵 (デカルコマニー)」。蝶, 蜻蛉, 蟬の羽根の紹介。No.29-30で一つの「単元」と考えられる。  |
| 30<br>(49)    | 貝・はね<br>[写実]                               | No.29を受けた。まず基本線を引き, 基本線の右に線や形を描き, それと同じ線や形を左に描く。これを繰り返し, 貝や羽のような模様や絵にする。原型を忠実に模写することでデッサンの基礎と位置づけ。   |
| 31<br>(50)    | 誰だ, いたずらは<br>[材料]                          | 色セロハンのボールを作り, 広げて光を当てる活動。試験官に色水を入れて光を当てたり, 風で揺らしたりする活動。光や動きを活かした題材 (現在の「造形遊び」的な題材)   |
| 32<br>(51)    | 何をしているの?<br>[立体造形]                         | 白セメントを混ぜ合わせて不定形の形を作る子供の活動の紹介。円盤状の形や三角錐などの形体を積み上げた塔のような作品。  |
| 33<br>(52)    | しわの絵<br>[偶然性]                              | 紙を丸めてのぼすと皺ができ, それを鉛筆でなぞり, 色を塗る活動。着物の絞り染めと同じやり方であることを紹介。  |
| 34<br>(53)    | おもちゃをこうあんする<br>[立体造形]                      | 草の輪, 豆細工 (風車, 犬, 鳥) といった身近な材料で作る活動。大人の考案した, 跨って滑る滑り台などの遊具案も紹介。   |
| 35<br>(54-55) | 動いている美しさ,<br>とまっている美しさ<br>[みる]             | 風車, 飛ばす玩具などの羽の紹介, 螺旋形の顔を持つルネ・マグリット (René Magritte 1898-1967) 風の作品, 揺れる炎, 風に靡く布のような構成, 墨流し (マープリング) 模様の紹介。  |

表3 『新しい絵あそび』 題材内容 3

| 題材No.<br>(頁) | 題材名<br>[類別]                       | 内容, 登場作品, 登場作家, 関連口絵  |
|--------------|-----------------------------------|---|
| 36<br>(56)   | 砂の絵<br>[材料]                       | 人の砂遊びとして「大阪 岸和田城庭園（八陣の庭）」(1953) の画像を挿入。砂のお城作りの活動。紙に砂を置き、指などで描いた後に絵の具をかけて砂を取り除く絵の活動。   |
| 37<br>(57)   | 数字のあそび<br>[構成・描画]                 | 四つの枠に任意の数字を書き、それぞれの数字をさらに分割したり、左右前後を色分けし模様にする活動。厚紙に好きな文字を書き、それを切り取って、型にして縁取りして模様にする。  |
| 38<br>(58)   | まるをふくらませる、<br>まるをちぢませる<br>[構成・描画] | まるを少しずつ小さくしたり、大きく描く活動。並べた10個の矩形で濃淡を描く活動。口絵のS.ドローネー作品と関連付け。  |
| 39<br>(59)   | 指の絵<br>[構成・描画]                    | 指を型にして紙の上で鉛筆で様々になぞり、模様にする活動。手の指紋を一本一本写す写実の基礎ともなるような活動。  |
| 40<br>(60)   | ろうそくの絵<br>[材料]                    | 蠟燭やクレヨンで描いた後、水彩絵具で塗る活動（パチック）。白いクレヨンで描いた絵に墨を塗って浮き上がらせる活動。  |
| 41<br>(61)   | 色あそび<br>[認知・ゲーム]                  | 交差点の信号機と同じように色ごとの約束事を決めておき、色のカードが出たらその約束の動きをする活動。   |
| 42<br>(62)   | 墨汁の絵<br>[材料]                      | 墨汁をつけた太筆で大きな画用紙や新聞紙に大胆に描く活動。軍艦、舟、犬、猫、自転車、飛行機などの好きなものを勢いよく描く活動。  |
| 43<br>(63)   | 一分間で<br>[認知・ゲーム]                  | 時間内に紙に多くのまる（三角、四角）を描く競争の活動など。口絵のS.ドローネー作品と関連付け。形を構成し、描く活動につなげる意図も感じられる。   |
| 44<br>(64)   | 点の絵<br>[認知・ゲーム]                   | 紙の上に点をたくさん打って置いて、それを結んで絵にする活動。それを集団でリレー式にする活動。直線を描いて模様や絵にする活動につなげる意図も感じられる。   |
| 45<br>(65)   | 線の人形<br>[立体造形]                    | アルベルト・ジャコメッティ (Alberto Giacometti 1901-1966) の作品（線的な彫刻）画像を参考に針金、手芸用モールなどで線の彫刻を作る活動。   |
| 46<br>(66)   | 拡大鏡で<br>[みる]                      | 新聞の活字部分や写真、「から消（自然に消えた炭）」を虫めがね（拡大鏡）で拡大して見る活動。普通に見ると違い、不思議な感覚になることに注目させている。  |
| 47<br>(67)   | 石の仏像<br>[みる]                      | 石ころの表面を眺め、何かに見立てる活動。<br>沢野井『石にたずねる』（創元社、1958年）に引き継がれる。  |
| 48<br>(68)   | けんび鏡<br>[みる]                      | 顕微鏡で見た「兎の卵巣、雪の結晶」と抽象絵画の類似点を見つける活動。ワシリー・カンディンスキー (Wassily Kandinsky 1866-1944) 「薔薇色のアクセント (Accent in Pink)」(1926) の画像（矩形と丸を組み合わせた叙情的な抽象絵画）を挿入。 |
| 49<br>(69)   | おしゃれの枯葉<br>[構成]                   | 地面に落ちている黄金色や真紅などの色の枯葉を白い紙の上におき、顔や体や舟などに仕立てて絵にする活動。  |
| 50<br>(70)   | まるみのある人体<br>写実                    | 人を描くとき、ポール・セザンヌ (Paul Cézanne 1839-1906) に倣い、円や楕円を繋いで描く活動。写実的な表現につながる活動の意図が感じられる。   |
| 51<br>(71)   | 形の中の線<br>[構成・描画]                  | ネーティブアメリカンのつくった頭像や頭に被る飾りに倣い、不定形な形で構成し、その中に線を描いて充填していく活動。  |
| 52<br>(72)   | セロハンなどで<br>[構成]                   | セロハン、紙テープ、しで紐を折り曲げて形を作り紙に糊で貼り付ける活動。<br>No.52-53で一つの「単元」と考えられる。  |
| 53<br>(73)   | 草、糸、マッチ棒<br>[構成]                  | 紙に糊をつけておき、そこに草、糸（赤色、黄色、青色）、マッチ棒、輪ゴム、砂、ビニル紐などを紙の上で構成する活動。  |
| 54<br>(74)   | 材質<br>[みる]                        | 草木の葉や織物などの画像を示し多様な「材質」（材質感）に気づく活動を紹介。<br>No.54-55で一つの「単元」と考えられる。  |
| 55<br>(75)   | 選択<br>[みる]                        | 「麦藁の束」や「傘の模様」などの画像を示し、そこから魅力的な場面を選び取る活動。そこにある材質感、線、色、模様に気づく活動を紹介。   |
| 56<br>(76)   | 貝がらから<br>[構成・描画]                  | 貝殻を見て形や模様を写し描く活動。そこから構成を考えて模様を描く活動。ジャン・アルプ (Jean Arp 1886-1966) 「地中海群像 (Mediterranean Group)」(1941/1965) の画像（曲面の塊をつなげた抽象彫刻）を挿入。               |

表 4 『新しい絵あそび』 題材内容 4

| 題材No.<br>(頁)  | 題材名<br>[類別]         | 内容, 登場作品, 登場作家, 関連口絵  |
|---------------|---------------------|---|
| 57<br>(77)    | 草花の影絵芝居<br>[材料]     | トレーシングペーパー(透写紙)に紙枠をつけ, そこに草花を貼り付け, 光をあて影絵にする活動。<br>昆虫・植物・採集に行ったときの場面が例示されている。   |
| 58<br>(78-81) | モザイク<br>[みる]        | 78頁 ポール・シニャック(Paul Signac 1863-1935)の点描作品, お風呂のタイル, 敷石などでモザイクを紹介・鑑賞する活動。/79頁 モザイクの材料として卵の殻, 貝殻, マッチ棒などを紹介。<br>/80頁 モザイクの材料として, 砂, 小石を紹介し, ヨーロッパの古い教会のモザイク画, クレー「ダイアナ(Diana)」(1931)画像(点描風の抽象画)を挿入。/81頁 方眼紙や碁盤でのモザイク画の活動。ピカソの菱形で描いた人体デッサンの紹介。 |
| 59<br>(82)    | ガラス絵<br>[材料]        | ガラスに墨汁で太い線を描き, 線と線の間に色の紙を貼り付けて明かりに透かす活動(ステンドグラス風)。フランス シャルトル本寺「聖母子」画像を挿入。   |
| 60<br>(83)    | 変な絵<br>[材料]         | 「写真の接木」(コラージュ Collage)の活動。ヴァルパネスコ, サルバドル・ダリ(Salvador Domenech Dalí 1904-1989)「メイ・ウエストの唇ソファ Mae West Lips Sofa」(1937-1938にデザイン)画像を挿入。ディペイズマン(Dépaysement)の発想(異なった環境に置くこと)についてコラージュを通して学ぶ活動。  |
| 61<br>(84-85) | こわい顔<br>[みる]        | 様々な怖い顔に刺激を受け, 描く活動。マックス・エルnst(Max Ernst 1891-1976)「マスク Masken」(1950)(骸骨のようなマスク), クレー作品画像(横線でできた顔), 新薬師寺伐折羅大将(奈良時代 8世紀), ジョルジョ・ブラック(Georges Braque 1882-1963)「水差しと罍 Baluster and Skull」(1938)画像を挿入。  |
| 62<br>(86-87) | 色あて遊び<br>[認知・ゲーム]   | 8つの色カードを見て記憶し, 紙に描く活動。逆さにして並べた15程のポスターカラーの瓶を記憶して言う活動。色セロハンのテープを複数吊る記憶した後, 目隠しをして色を当てる活動。No.41と関連させ, 人の姿勢と色を組み合わせで記憶する活動。  |
| 63<br>(88)    | 三角, 円, 四角<br>[構成]   | 小さい三角, 円, 四角を沢山切っておき, それをグループごとに, リレー形式で貼っていき, 絵にする活動。モノの部分を描いたカードを作っておき, 何か当てる活動。積み木のように崩れない絵を描く活動。  |
| 64<br>(89)    | ボールはどこへ<br>[認知・ゲーム] | 伝言ゲームのような形で, 簡単な絵を見せ写し, それをリレーしていく活動。紙を三つ折りし, 波, 三角, 円形をそこに描いてレビューガールのようにする活動。  |
| 65<br>(90)    | 工夫<br>[立体造形]        | 板に釘を打ち, 黍稗(きびがら)を食い込ませ, インク瓶の蓋, 化粧品瓶の蓋などをかぶせ, 壁飾りやネクタイ掛けにする活動。板に釘を打ち, 糸巻きを差し込み, 色紙などを貼り付ける活動。同じような方法でオブジェにする活動。No.65-67で一つの「単元」と考えられる。  |
| 66<br>(91)    | 紙のかべかけ<br>[立体造形]    | 画用紙の裏に色紙を貼っておいた上で, その紙に切れ目を入れ, 折り曲げて立たせ, 壁掛けにする活動。裏側の色がアクセントになる。  |
| 67<br>(92)    | くらしの工夫<br>[立体造形]    | 紙を半分に折り, 切れ目を入れて開きランプシェードにする活動。本の外函を切って状差しを作る活動。端切れを使ったパッチワークの活動。口絵の大丸水曜クラブ(婦人の集い)造形グループ作品画像を挿入。  |
| 68<br>(93)    | 旗<br>[線描・模様]        | 長方形や正方形の枠を描いた上で, 直線や曲線を引き, 色塗りをして国旗を作る活動。口絵のルピアン作品と関連。  |
| 69<br>(94)    | 土いじり<br>[立体造形]      | 土粘土, 油粘土, 紙粘土などで顔や人をつくる活動。型作りや板の上に粘土をのせて描くことなども紹介。顔をつくった子供作品画像を挿入。  |
| 70<br>(95)    | 暗号<br>[線描・模様]       | 円に直線や曲線を引いて色を塗り, 五十音に対応させた暗号を作る活動。暗号を感じさせるような石像画像を挿入。   |
| 71<br>(96)    | 暗号<br>[みる]          | 展覧会で抽象的な絵を見ると, キャプションを見ずに暗号を読むように作品そのものから読み取る活動。電子顕微鏡の画像も紹介。  |
| 72<br>(97)    | はり絵<br>[構成]         | 細かく千切った紙を貼って絵にしたり, ハサミで切って構成する活動。山下清(1922-1971)「お化け」画像などを挿入。No.72-74で一つの「単元」と考えられる。   |
| 73<br>(98)    | 布のはり絵<br>[構成]       | 端切れを切り取って板の上におき, 組み合わせがきれいと思ったとき糊で貼り付ける活動。No.4「一壘へ二壘へ三壘へ」の「自動筆記法」を活かす方法もある。口絵の「切り紙貼り紙作品」と関連づけ。  |
| 74<br>(99)    | はり紙, きり紙<br>[構成]    | つくったはり絵を十字に切り組み合わせる活動。同じ字を書いたカードを複数作っておき, 切って構成することで変わることを楽しむ活動。口絵の「切り紙貼り紙作品」と関連づけ。   |



表5 『新しい絵あそび』 題材内容 5

| 題材No.<br>(頁) | 題材名<br>[類別]        | 内容, 登場作品, 登場作家, 関連口絵   |
|--------------|--------------------|--|
| 75<br>(100)  | どちらが好きか<br>[みる]    | 2枚のよく似た模様のカードを数種類作っておき, どちらが好きか仲間で調べてみる活動。明朝体, ゴシック体など活字の字体で行う活動。  |
| 76<br>(101)  | 角のなかの線<br>[線描・模様]  | 多角形(五角形, 六角形, 七角形・・・・)の対角線を競いあって結ぶ活動。そこで, できた三角形を色分けする活動。  |
| 77<br>(102)  | どっちが先か<br>[認知・ゲーム] | 阿弥陀くじで線を引き, 当たりを競う活動。直線, 曲線で複雑に交差した道を作成しておき, 競争的にゴールに向かう活動。紙に丸をたくさん描き, 全てを通してゴールの丸に到達する競争的な活動。活動の後でできた線を鑑賞する意図もあると考えられる。 |
| 78<br>(103)  | 数あて遊び<br>[認知・ゲーム]  | 四角, 色付き四角, 丸, 色付き丸などを一枚の紙にかいておき, それぞれがいくつあるか競いあって数える活動。認知機能を活性化する活動。   |
| 79<br>(104)  | 四角の輪<br>[構成・描画]    | 小さな四角形(三角形, 円)を順に大きな四角形(三角形, 円)で囲み模様にして描く活動。「姫路城壁」画像を挿入。口絵のS.ドローネー作品と関連付け。   |
| 80<br>(105)  | レリーフ<br>[構成]       | 厚紙に好きな形を描き切り抜き, 板の上で組み合わせて糊で貼り付ける。切り抜いた形に支えを作って立て彫刻にする活動。イサム・ノグチ(1904-1988)「彫刻のためのエスキース」画像を挿入。                           |
| 81<br>(106)  | ひきかき絵<br>[材料]      | 白い地塗りをした厚紙に石膏を塗り, その上に黒の絵の具を塗り, 釘などで引き搔いて描く活動(scratch)。クレー作品画像を挿入。   |
| 82<br>(107)  | 絵日記<br>[みる]        | 子供の絵日記である「魚取り」など4日分を画像で紹介。沢野井の子供の日記と察することのできる画像がある。  |
| 83<br>(108)  | ポスター, そうてい<br>[みる] | 山城隆一(1920-1997)「sunkist」のポスター, 早川良雄(1917-2009)『壁画:句画集』(1956, 俳句 山口誓子, エッチング 沢野井信夫・泉茂)の装幀のシンプルな構成を紹介。                     |
| 84<br>(109)  | 三つの点の顔<br>[みる]     | 円に三つの点を打った絵を複数種類用意し, それを顔に見立てる活動。これをふまえて, ピカソに倣い, 多視点で顔を描く活動や逆にしても顔になる「上下絵」を考える活動もある。No.84-87で一つの「単元」と考えられる。             |
| 85<br>(110)  | 円い顔<br>[構成・描画]     | カルタとりで顔に墨を塗る罰ゲームをふまえて顔に注目させ, 画用紙にコンパスで円を描いて切り取り, 顔を描く活動。2人で半分ずつ顔を交換したり, 面をしたまま描く活動。ピカソを紹介。                               |
| 86<br>(111)  | 自分の顔<br>[構成・描画]    | クレー「セネシオ(Senecio)」(1922)画像(半抽象的な顔)を挿入し, 真面目な顔, 片目を瞑った顔, 喜怒哀楽などの表情を鏡で見て自画像を描く活動。写実表現につながる面もある。                            |
| 87<br>(112)  | 言葉のない劇<br>[みる]     | マルセル・マルソー(Marcel Marceau 1923-2007)の画像を挿入し, 表情や仕草で表現することを鑑賞する活動。No.85-87で一つの「単元」と考えられる。                                  |
| 88<br>(113)  | 線の感情<br>[みる]       | <水平線, 斜線, 電光線, 曲線>, <様々な色>から感じることを味わう活動。のどかさ, 激しさ, 残酷さ, 自由さ, 陽気さなどの言葉と結びつけている。   |
| 89<br>(114)  | 絵を歌にする<br>[線描・模様]  | 好きな色のクレヨン, パスで, 自分で歌を歌いながら, あるいはピアノの伴奏に合わせて曲線や点線を描く活動。その後, できた作品を色分けする活動。  |
| 90<br>(115)  | 三本の線と点と<br>[線描・模様] | 荷物を積んだ三輪のオートバイが走った後に残る線のように鉛筆, クレヨン, パス3, 4本をゴムで括り付けて描く活動。   |
| 91<br>(116)  | 簡単になる絵<br>[みる]     | ピカソ「牝牛(The Bull)」シリーズ制作の画像を挿入し, 段々と簡潔な線で描かれていく牛の姿を鑑賞する活動。写生素描のときも, 無駄な線を後に消しゴムで消すと良いと解説。                                 |
| 92<br>(117)  | あたりまえの絵<br>[線描・模様] | 鉛筆で描いた黒い線や面を消しゴムなどで消していく活動や白い紙に<白地を消すような気持ち>で黒く描く活動。口絵のルビアン作品と関連づけ。  |
| 93<br>(118)  | 窓ガラスに絵<br>[線描・模様]  | 窓ガラスにマジックインキで絵を描く活動。丸, 三角, 四角, パツなどで描いた挿絵を挿入。臍顔染めの口絵のテーブル掛作品と関連づけ。   |
| 94<br>(119)  | 目を閉じて<br>[その他]     | 目を閉じて手の先で触れたものを覚えておいて描く活動や音や匂いを絵にする活動。これまでの活動をふまえた総合的な活動と考えられる。  |
| 95<br>(120)  | 詩と絵<br>[その他]       | 詩を絵や模様にする活動。絵を詩にする活動。模様にする場合には, 「形を構成し, 描く活動」の類型に入る。   |

表 6 『新しい絵あそび』 題材内容 6

| 題材No.<br>(頁) | 題材名<br>[類別]         | 内容, 登場作品, 登場作家, 関連口絵   |
|--------------|---------------------|--|
| 96<br>(121)  | 糸をたらしした絵あそび [線描・模様] | 色紙に糊を付けた糸を垂らして線の絵にする活動。紙に接着剤を付け曲げた針金をおいて線の絵にする活動。採集した植物を紙の上にはる活動。「材料を工夫した活動」の類別にも入る。                           |
| 97<br>(122)  | 買物あそび [認知・ゲーム]      | 別々の店に行って買えるものを一分間で競って描いていった後、絵にする活動。絵しりとりを集団で競わせていく活動。   |
| 98<br>(123)  | 形あわせ遊び [認知・ゲーム]     | 円, 四角, 三角, 描いた絵などを分割しておいて元に戻す活動。「知育玩具」の性格がある。地面に描いた三角形, 四角形, 円に, 玉などを輪投げのように入れる活動もある。96頁と97頁の間のモノクログラビア頁と関連付け。 |
| 99<br>(124)  | あぶりだし [材料]          | 酢, 明礬, 蜜柑や玉葱の汁などを皿に入れ, それを筆につけて絵や字を描き, 後ほど炙り出して見る活動。炙り出して描いた手紙で相手を驚かせる事例を紹介。                                   |
| 100<br>(125) | フィルムに [材料]          | 不要となったフィルムを湯で洗い透明のセルロイドにしてマジック・インキでかき, 幻燈機に映す活動。バラバラ漫画の活動などもある。  |
| 101<br>(126) | 動く絵の黒板 [材料]         | レースを付けた黒板に荒めの紙を裏付けしたものに描いた兎や亀をおき, 動かす活動 (「パネルシアター」)。短い紐をつなぐ活動や紐や縄で絵を描く活動もある。                                   |
| 102<br>(127) | 水鉄砲で [偶然性]          | 水鉄砲に水彩絵の具をといた水を入れて, 画用紙の上に絵を描く活動や量しの活動。できた作品をハサミで切り, 彩色する活動。   |
| 103<br>(128) | 箱の中の線 [線描・模様]       | 線で直方体を描き, その中に任意に点を打ち, 点と点を線で結び, 色を塗る活動。造形表現に結びつけた「遊び」の採点方法もある。ルビアン の口絵作品と関連づけ。                                |
| 104<br>(129) | ジャンケン・ポイで [線描・模様]   | 2組で競い合い, じゃん拳で勝った方から線を一本ずつ描いて絵にする活動。競争で漢字やアルファベットを完成させる活動もある。  |
| 105<br>(130) | マッチ (箱) つくり [立体造形]  | 古いマッチ箱やキャラメル箱の空箱に色紙や布を貼り, さらに模様や名前を描いたりしてリニューアルする活動。   |

\*2 沢野井が「本の中の絵」(第135頁)に記しているが, 上記「題材」の中で特定できずに明記しなかった作者や団体  
須田剋太 (1906-1990), 田中健三 (1918-2012), 小笠原健一, 富田草司, 三上雅也, 山田繁雄 (1909-1989), 駒井哲郎 (1920-1976)  
布施幼稚園, みどり幼稚園, 山滝幼稚園, 忠岡幼稚園, 大丸こども会

\*3 沢野井が「むすび」(第136頁)の「謝辞」に記した方, 会社  
1956年版<1956年7月記>村松寛 (朝日新聞社学芸部), 大阪創美, 宮武辰夫 (大阪創美), 久保貞次郎, 大丸 (沢野井の職場), 創元社  
1966年版<1966年5月記>宮武辰夫, 久保貞次郎, 村松寛 (朝日新聞社学芸部), 保坂富士夫 (創元社)

形を元に戻すゲームもできる。No.2「円を二つに」(第4-5頁)とあわせて「一単位」と考えられる。

No.12「なんにもすることない」(第16頁)は, 何もすることがないときにやれる活動を紹介した。本, 筆箱, 消しゴムなどを机上に並べて構成する活動である。図1-4は, 絵の具チューブを卓上に並べて構成した。No.13「することたくさん」[みる](第17頁), No.14「自由な大人」[みる](第18頁)とあわせて, いわゆる一つの「単位」と考えられる。

No.52「セロハンなどで」(第72頁)は, セロハン, 紙テープ, しで紐を折り曲げて形を作り紙に糊で貼り付け



図1-4 No.12 なんにもすることない

る活動である。No.53「草, 糸, マッチ棒」(第73頁)とあわせて一「単位」と考えられる。

No.73「布のはり絵」(第98頁)は, 端切れを切り取って板の上におき, 組み合わせがきれいと思ったとき糊で貼り付ける活動である。No.4「一壘へ二壘へ三壘へ」[線描・模様](第8頁)で用いられたシュルレアリスムの「自動筆記法 (オートマティスム Automatism)」を活かす方法もある。口絵第3頁の「切り紙貼り紙作品」と関連付けた。

No.80「レリーフ」(第105頁)は, 厚紙に好きな形を描いた上で切り抜き, 板の上で組み合わせ糊で貼り付けたり, 切り抜いた形に支えを作って立て彫刻にする活動である。イサム・ノグチ (1904-1988)「彫刻のためのエスキース」画像を挿入した。

#### 4.3. (2) 形を構成し, 描く活動 [構成・描画]

「(2) 形を構成し, 描く活動」は, 形を画面に配置しながら描く活動である。以下の10題材 (10頁分) で, 題

材総頁数に占める割合は約7.9%である。

No.16（第20頁）、No.24（第39頁）、No.37（第57頁）、No.38（第58頁）、No.39（第59頁）、No.51（第71頁）、No.56（第76頁）、No.79（第104頁）、No.85（第110頁）、No.86（第111頁）

No.16「まるの遊び」（第20頁）は、コンパス、糊の蓋などで円をたくさん描き、模様や絵を描く活動（図2）であり、口絵第1頁にあるS.ドローネ作品と関連付けた。

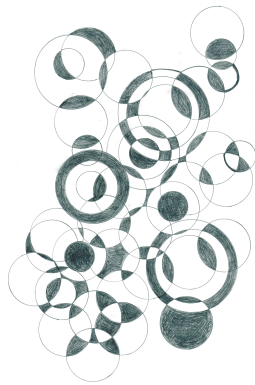


図2 No.16 まるの遊び

No.24「使う絵」（第39頁）は、円、四角、三角などを構成して描く活動であり、レオン・ポーク・スミス（Leon Polk Smith 1906-1996）の「コの字」形を組み合わせた幾何学的な抽象作品画像を挿入した。

No.37「数字のあそび」（第57頁）は、四つの枠に任意の数字を書き、それぞれの数字をさらに分割したり、左右前後を色分けし模様にする活動である。厚紙に好きな文字を書き、それを切り取って、型にして縁取りして模様にした。

No.39「指の絵」（第59頁）は、指を型にして紙の上で鉛筆で様々になぞり、模様にする活動である。手の指紋を一本一本写す写実の基礎ともなるような活動でもある。

No.79「四角の輪」（第104頁）は、小さな四角形（や三角形、円）を順に大きな四角形（や三角形、円）で囲み模様にして描く活動である。これも口絵第1頁のS.ドローネ作品と関連付けており、「姫路城壁」画像も挿入した。

#### 4.4.（3）直線や曲線を描いて模様や絵にする活動【線描・模様】

「（3）直線や曲線を描いて模様や絵にする活動」は、線描をもとに模様や絵にする活動である。「自動筆記法（オートマティズム）」を用いることも多く、抽象的な絵になることが多い。以下の14題材（15頁分）で、題材総頁数に占める割合は約11.8%である。

No.3（第6-7頁）、No.4（第8頁）、No.5（第9頁）、No.8（第12頁）、No.68（第93頁）、No.70（第95頁）、No.76（第101頁）、No.89（第114頁）、No.90（第115頁）、No.92（第117頁）、No.93（第118頁）、No.96（第121頁）、No.103（第128頁）、No.104（第129頁）

No.4「一塁へ二塁へ三塁へ」（第8頁）は、野球でボールを投げた後の軌跡を紙の上で定規で描く活動や

線ができたなら色で塗り分け模様にする活動である。同様に、スケートで滑る線を描き、色を塗る活動（図3-1）もある。口絵第1頁のJ.ルピアン作品と関連付けた。フェルナンド・レジェ（Fernand Léger 1881-1955）風の静物画画像も挿入した。No.73「布の貼絵」[構成]（第98頁）では、No.4のこの「自動筆記法（オートマティズム）」を発展させることが示されている。No.3「線の絵あそび」（第6-7頁）、No.5「線の自動車」（第9頁）、No.6「お空に馬がかけてゆく」[みる]（第10頁）、No.7「叱られて」[みる]（第11頁）とあわせて「一単位」として考えられる。

No.5「線の自動車」（第9頁）は、自動車のように自由に走り回る軌跡を描き、色を塗って模様にする活動である。何も浮かんでこない時には、このような「自動筆記法」を使い、見立て活動ができるとした。口絵第4頁の沢野井「線の自動車」試作作品に関連付けした。

No.68「旗」（第93頁）は、長方形や正方形の枠を描いた上で、直線や曲線を引き、色塗りをして国旗を作る活動である。口絵第1頁のJ.ルピアン作品と関連付けした。

No.70「暗号」（第95頁）は、円に直線や曲線を引いて色を塗り、五十音に対応させた暗号を作る活動である。暗号を感じさせるような石像画像を挿入した。図3-2と3-3は、

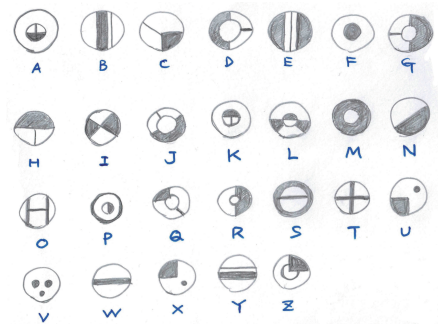


図3-2 No.70 暗号

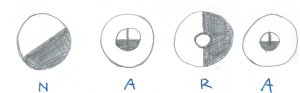


図3-3 No.70 暗号 解読

No.90「三本の線と点と」（第115頁）は、荷物を積んだ三輪のオートバイが走った後に残る線のように鉛筆、クレヨン、パス3、4本をゴムで括り付けて描く活動である。

No.96「糸をたらしした絵あそび」（第121頁）は、色紙に糊を付けた糸を垂らして線の絵にする活動、紙に接着



図3-1 No.4 一塁へ二塁へ三塁へ（スケート版）



剤を付け曲げた針金をおいて線の絵にする活動、採集した植物を紙の上に貼る活動である。「材料を工夫した活動」の類別にも入る。

#### 4.5. (4) みる活動や作品などの紹介(鑑賞) [みる]

「(4) みる活動や作品などの紹介(鑑賞)」は、各題材に因んだ美術やデザイン作品、文化遺産、身の回りにある自然や人工物などを紹介し鑑賞させている。その中には、連続する他の「題材」の表現活動につなげる意図があるものもある。以下の23題材(28頁分)で、題材総頁数に占める割合は約22.0%である

No.6 (第10頁), No.7 (第11頁), No.10 (第14頁), No.11 (第15頁), No.13 (第17頁), No.14 (第18頁), No.21 (第34頁), No.35 (第54-55頁), No.46 (第66頁), 47 (第67頁), No.48 (第68頁), No.54 (第74頁), No.55 (第75頁), No.58 (第78-81頁), No.61 (第84-85頁), No.71 (第96頁), No.75 (第100頁), No.82 (第107頁), No.83 (第108頁), No.84 (第109頁), No.87 (第112頁), No.88 (第113頁), No.91 (第117頁)

No.21「同じ形の模様」(第34頁)は、線でできた模様(一バルコニーの垣、エルヒティオンという古城の内陣壁装飾)、円や三角を切り抜いたセルロイドの物差しを紹介し、鑑賞する活動である。

No.54「材質」(第74頁)は、草木の葉や織物などの画像を示し多様な「材質」(材質感)に気づく活動を紹介した。No.55「選択」(第75頁)とあわせて「単元」と考えられる。

No.58「モザイク」(第78-81頁)は、次の内容構成である。

・ポール・シニャック (Paul Signac 1863-1935) の点描作品、お風呂のタイル、敷石(図4-1)などでモザイクを紹介・鑑賞する活動(第78頁)。／・モザイクの材料として卵の殻、貝殻、マッチ棒などの紹介(第79頁)。／・モザイクの材料として、砂、小石を紹介し、ヨーロッパの古い教会のモザイク画、クレア「ダイアナ(Diana)」(1931)画像を挿入(第80頁)。／・方眼紙や碁盤でのモザイク画の活動(図4-2)。ピカソの菱形で描いた人体デッサンの紹介(第81頁)。

No.83「ポスター、そうてい」(第108頁)は、山城隆一(1920-1997)「sunkist」



図4-1 No.58 モザイク  
奈良教育大学 構内

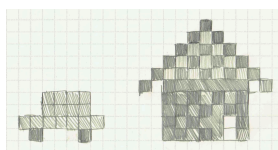


図4-2 No.58 モザイク  
方眼紙で

のポスター、早川良雄(1917-2009)『壁画：句画集』(1956, 俳句 山口誓子, エッチング 沢野井信夫・泉茂)の装幀のシンプルな構成を紹介した。

No.88「線の感情」(第113頁)は、＜水平線、斜線、電光線、曲線＞、＜様々な色＞から感じることを味わう活動である。のどかさ、激しさ、残酷さ、自由さ、陽気さなどの言葉と結びつけている。

#### 4.6. (5) 認知機能を活性化するゲーム的な活動 [認知・ゲーム]

「(5) 認知機能を活性化するゲーム的な活動」は、色や形の造形物を用いて認知機能を活性化するゲーム的な活動(個人または集団)である。以下の10題材(11頁分)で、題材総頁数に占める割合は約8.7%である。

No.9 (第13頁), No.41 (第61頁), No.43 (第63頁), No.44 (第64頁), No.62 (第86-87頁), No.64 (第89頁), No.77 (第102頁), No.78 (第103頁), No.97 (第122頁), No.98 (第123頁)

No.9「記憶テスト」(第13頁)は、○, ▽, □などを任意に並べたカード(図5-1)を作成しておき、それを覚えさせ、記憶力を試す競争的な活動。最初は三つの形から始め、数を増やしたり、形を複雑にするなど難易度を上げていく。

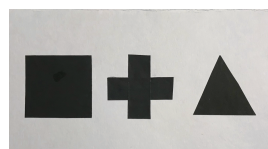


図5-1 No.9 記憶テスト

No.41「色あそび」(第61頁)は、交差点の信号機と同じように色ごとの約束事を決めておき、色のカードが出たらその約束後の動きをする活動である。

No.44「点の絵」(第64頁)は、紙の上に点をたくさん打っておいて(図5-2)、それを結んで絵にする活動(図5-3)。それを集団でリレー式にする活動もある。直線を描いて模様や絵にする活動につなげる意図も感じられる。

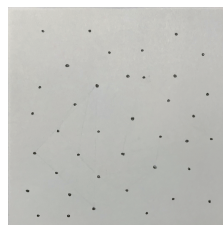


図5-2 No.44 点の絵

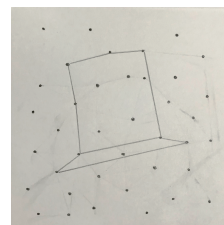


図5-3 No.44 点の絵

No.64「ボールはどこへ」(第89頁)は、伝言ゲームのような形で、簡単な絵を見せ写し、それをリレーしていく活動や紙を三つ折りし、波、三角、円形をそこに描いてレビューガールのようにする活動である。

No.98「形あわせ遊び」(第123頁)は、円、四角、三角、描いた絵などを分割しておいて元に戻す活動で「知育玩



具」の性格がある。地面に描いた三角形、四角形、円に、玉などを輪投げのように入れる活動もある。第96頁と第97頁の間のモノクログラビア頁の第3頁上の写真と関連付けた。

#### 4.7.（6）偶然性を活かした活動【偶然性】

「（6）偶然性を活かした活動」は、「墨流し」、「吹き流し」、「合わせ絵」などの技法を用いた活動である。以下の6題材（7頁分）で、題材総頁数に占める割合は約5.5%である

No.15（第19頁）、No.23（第38頁）、No.25（第40-41頁）、No.29（第48頁）、No.33（第52頁）、No.102（第127頁）

No.15「いたずらゴッコ」（第19頁）は、糊に色を混ぜて、お餅のようについたり、指で引き描きしたりして、フィンガーペインティングする活動（指絵）である。口絵第3頁の「フィンガーペインティング」作品と関連付けた。

No.23「水のはなが」（第38頁）は、墨汁などを用いて墨流し（マーブリング）する活動である。できた作品を選択し、別の絵に構成する活動もある。版画の性格もある。

No.25「運動する絵」（第40-41頁）は、吹き流しする活動である。アンリ・ミショー（Henri Michaux 1899-1984）作品、顕微鏡、岸壁に描かれた絵などの画像を挿入した。

No.29「右と左がおなじ絵」（第48頁）は、紙を折り片方に絵の具をつけてあわせる「合わせ絵（デカルコマニー decalcomanie）」である。蝶、蜻蛉、蟬の羽根の紹介もした。No.30「貝・はね」[写真]（第49頁）とあわせて一「単位」と考えられる。



図6-1 No.33しわの絵

No.33「しわの絵」（第52頁）は、紙を丸めてのばすと皺ができ、それを鉛筆でなぞったり（図6-1）、そこに色を塗る活動（図6-2）である。着物の絞り染めと同じやり方であることも紹介した。



図6-2 No.33しわの絵 色付き

#### 4.8.（7）写実的な表現につながる活動【写実】

「（7）写実的な表現につながる活動」は、本書では稀少である。以下の5題材（5頁分）で、題材総頁数に占める割合は約3.9%である。

No.17（第21頁）、No.26（第42頁）、No.27（第43頁）、No.30（第49頁）、No.50（第70頁）

No.17「球」（第21頁）は、ピンポン玉、地球儀、ボールなど球状のものを見つけ、光をあて陰影を観察し、描く活動である。描いたボール大の円を遠ざけて、どこまで見えるか確認する活動などもある。

No.26「卵と角砂糖の話」（第42頁）は、卵や角砂糖のような色がなく単純な形態ほど写生は難しいということアンリ・マチス（Henri Matisse 1869-1954）、モーリス・ド・ブラマンク（Maurice de Vlaminck 1876-1958）のエピソードをふまえて紹介した。No.27「絵になる材料」とあわせて一「単位」と考えられる。

No.27「絵になる材料」（第43頁）は、No.26「卵と角砂糖の話」を受けて写生のモチーフとして、お手玉、ボール、石、くるみ、貝、風船を紹介した（図7）。

No.30「貝・はね」（第49頁）は、No.29「右と左がおなじ絵」[偶然性]を受けた内容である。まず基本線を引き、基本線の右に線や形を描き、それと同じ線や形を左に描く。これを繰り返し、貝や羽のような模様や絵にする。原型を忠実に模写することでデッサンの基礎と位置づけた。



図7 No.27 絵になる材料

No.50「まるみのある人体」（第70頁）は、人を描くとき、ポール・セザンヌ（Paul Cézanne 1839-1906）に倣い、円や楕円を繋いで描く活動である。写実的な表現につながる活動の意図が感じられる。

#### 4.9.（8）版を使った活動【版】

「（8）版を使った活動」は、「（6）偶然性を活かした活動」とも重なる内容がある活動である。以下の3題材（12頁分）で、題材総頁数に占める割合は約9.4%である。

No.18（第22-31頁）、No.19（第32頁）、No.20（第33頁）、No.18「版画」（第22-31頁）は、一つの題材ながら10頁分あり次の内容構成になっている。

・紙版を作りクレヨンで擦り出す活動（第22頁）。／・擦り出し、拓本（第23頁）。／・切紙版画、霧吹き版画（第24頁）。／・マックス・エルンスト（Max Ernst 1891-1976）の擦り出し（フロッターージュ frottage）作品紹介（第25頁）。／・虫めがねで太陽の光を集め焦がした版画（第26頁）。／・イモ版、木版、擦り出し。パブロ・ピカソ（Pablo Picasso 1881-1973）のリトグラフ、パウル・クレイ（Paul Klee 1879-1940）の引き掻き絵を紹介（第27頁）。／・銅版画（エッチング）の紹介（第28頁）。／・版画に関わる作品を紹介（14世紀のヨーロッパの木彫レ

リーフ、中国の剪纸、イースター島の石像レリーフ）（第29頁）。／・ 謄写版版画、日光写真、ガラス絵版画などの紹介（大阪 山滝小学校児童作品）（第30-31頁）。図8-1は、切紙版画の型紙で、この型紙の上からクレヨン、パス、霧吹きなどを使い、紙にうつす（図8-2）。

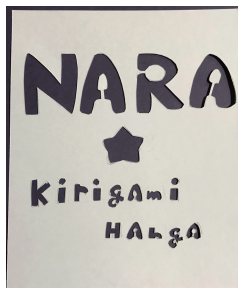


図8-1 No.18版画  
切紙版画



図8-2 No.18 版画  
切紙版画 色刷り

No.19「写真機のいらない写真機」（第32頁）は、懐中電灯を使った印画紙版画の活動である。No.20「政子ちゃんの工夫」（第33頁）は、印画紙版画である。材料として、くしゃくしゃにしたセロファンやガラスコップをあげ、それらを動かした感じも示した。マン・レイ（Man Ray 1890-1976）作品画像を挿入した。

No.18, 19, 20は、沢野井『版画のいろいろー版画あそび』（創元社、1960年）に引き継がれた。

#### 4.10. (9) 立体的な造形作品をつくる活動 [立体造形]

『新しい絵あそび』という書名ではあるが、「(9) 立体的な造形作品をつくる活動」がある。以下の9題材（9頁分）で、題材総頁数に占める割合は約7.1%である。

No.22（第35頁）、No.32（第51頁）、No.34（第53頁）、No.45（第65頁）、No.65（第90頁）、No.66（第91頁）、No.67（第92頁）、No.69（第94頁）、No.105（第130頁）

No.22「モビール」（第35頁）は、動く造形作品をつくる活動である。アレクサンダー・カルダー（Alexander Calder 1898-1976）の作品画像を挿入した。

No.34「おもちゃをこうあんする」（第53頁）は、草の輪、豆細工（風車、犬、鳥）といった身近な材料で作る活動である。大人の考案した、跨って滑る滑り台などの遊具案も紹介した。

No.45「線の人形」（第65頁）は、アルベルト・ジャコメッティ（Alberto Giacometti 1901-1966）の作品画像を参考に針金、手芸用モールなどで線の彫刻を作る活動である。

No.67「くらしの工夫」（第92頁）は、紙を半分に折り、切れ目を入



図9-1 No.67  
くらしの工夫 ランプシェード

れて開き、ランプシェードにする活動（図9-1）、本の外函を切って状差しを作る活動、端切れを使ったパッチワークの活動などである。口絵第2頁の沢野井の勤務先の大丸百貨店の「水曜クラブ（婦人の集い）」造形グループの作品画像を挿入した。

No.105「マッチ（箱）づくり」（第130頁）は、古いマッチ箱やキャラメル箱の空箱に色紙や布を貼り、さらに模様や名前を描いたりしてリニューアルする活動（図9-2）である。

これらの「立体造形」題材は、沢野井『造形のあそびー現代美術の創造』（創元社、1968年）に引き継がれた。

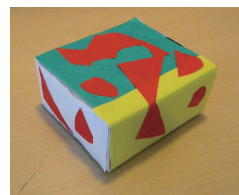


図9-2 No.105  
マッチ（箱）づくり  
素敵な箱

#### 4.11. (10) 材料を工夫した活動 [材料]

「(10) 材料を工夫した活動」は、(6) 偶然性を活かした活動」とも重なる内容がある活動である。以下の11題材（11頁分）で、題材総頁数に占める割合は約8.7%である。

No.31（第50頁）、No.36（第56頁）、No.40（第60頁）、No.42（第62頁）、No.57（第77頁）、No.59（第82頁）、No.60（第83頁）、No.81（第106頁）、No.99（第124頁）、No.100（第125頁）、No.101（第126頁）

No.31「誰だ、いたずら者は」（第50頁）は、色セロハンのボールを作り、広げて光を当てる活動や試験官に色水を入れて光を当てたり、風で揺らしたりする活動である。光や動きを活かした題材で現行学校学習指導要領の「造形遊び」的な題材と言える。図10-1は、赤いセロハンを丸めて光を当てた。

No.40「ろうそくの絵」（第60頁）は、蠟燭やクレヨンで描いた後、水彩絵具で塗ったり、白いクレヨンで描いた絵に墨を塗って浮き上がらせる活動である。

No.60「変な絵」（第83頁）は、「写真の接木」（コラージュ collage）の活動である（図10-2）。ヴァルバネスコ、サルバドール・ダリ（Salvador Domenech Dali 1904-1989）「メイ・ウエストの唇ソファ」Mae West Lips Sofa」



図10-1 No.31誰だ、いたずら者は セロハン



図10-2 No.60 変な絵



（1937-1938にデザイン）画像を挿入した。思いがけない二つのものが出会い不思議な感情を抱かせるディペイズマン（Dépaysement）の発想についてコラージュを通して学ぶ活動である。

No.99「あぶりだし」（第124頁）は、酢、明礬、蜜柑や玉葱の汁などを皿に入れ、それを筆につけて絵や字を描き、後ほど炙り出しで見る活動である。炙り出しで描いた手紙で相手を驚かせる事例を紹介した。

No.100「フィルムに」（第125頁）は、不要となったフィルムを湯で洗い透明のセルロイドにしてマジック・インキでかき、幻燈機に映す活動である。パラパラ漫画の活動もある。

#### 4. 12. その他

以上、10の類別ごとに述べてきたが、この類別に収まらない2題材（2頁分）もあった。題材総頁数に占める割合は約1.6%である。

No.94「目を閉じて」（第119頁）は、目を閉じて手の先で触れたものを覚えておいて描く活動や音や匂いを絵にする活動である。これまでの活動をふまえた総合的な活動と考えられる。No.95「詩と絵」（第120頁）は、詩を絵や模様にする活動と反対に絵を詩にする活動である。詩の内容を模様にする場合には、「形を構成し、描く活動」[構成・描画]の類別に入ると考えられる。

### 5. 『新しい絵あそび』の「題材」の傾向

#### 5. 1. 内容構成からみる傾向

第4章で、表1-6での整理をふまえ、類別ごとに「題材」の詳細を見た。ただし、先に述べたように、一つの題材に幾つかの活動が含まれていたり、複数の類別にまたがる活動もあり、厳密な類別にはなっていない。前章をふまえ、内容のおおよその傾向をみる。

「（1）形を構成する活動[構成]」（題材総頁数の約13.4%の頁数）「（2）形を構成し、描く活動[構成・描画]」（題材総頁数の約7.9%の頁数）「（3）直線や曲線を描いて模様や絵にする活動[線描・模様]」（題材総頁数の約11.8%の頁数）は、いわゆるデザイン、模様、抽象絵画に関わる内容と言える。類別（1）（2）（3）をあわせると、題材総頁数の約33.1%になり、1/3を占めた。沢野井自身が装幀した同書のブックカバー（カラー）もこの範疇に入り、この書の主要な内容となっている。また、他の類別での活動も、ここにあるような形の構成や模様を扱っている例がある。

逆に、赤松麟作への師事や新文展・日展への出品が根底にあると考えられる「（7）写実的な表現につながる活動[写実]」は題材総頁数の約3.9%の頁数であり、全体に占める割合は少ない。

第3章「3.2. 内容構成」で見たように、『新しい絵あそび』は、絵や工作が苦手な子供、デザインや模様づくりに苦戦しているその家族（姉、母）に役立つように編まれた。沢野井の構想では、そうした子供にはデザイン、模様といった内容の方が写実的な表現より取り組みやすいと考えたからではないかと推測される。さらに沢野井は本書の趣旨として、子供の家族である洋裁学校や茶道に通う姉、編み物や手芸をする母、造形を研究する父や兄、絵の先生にも馴染んで欲しいと続けている。構成や模様づくりの活動は、実生活での裁縫やインテリアデザインへの汎用性があると考えたのではなかろうか。そして、その構想の基盤には、長谷川三郎への師事や自由美術展への出品、大丸大阪店での出版やデザインの業務があると言える。

続いて多いのは、「（4）みる活動や作品などの紹介（鑑賞）[みる]」で、題材総頁数に占める割合は約22.0%の頁数である。これは、鑑賞活動単独の場合もあるが、他の表現活動題材への示唆や刺激として紹介している場合もある。各題材に因んだ美術やデザイン作品、文化遺産、身の回りにある自然や人工物などを紹介した。氏の幅広い研究の成果が窺われるが、これは他の類別での画像挿入にも活かされている。

さらに「（6）偶然性を活かした活動[偶然性]」（題材総頁数の約5.5%の頁数）は、「指絵」「墨流し」「吹き流し」「合わせ絵」などの技法を用いた活動である。その特徴から「（8）版を使った活動[版]」（題材総頁数の約9.4%の頁数）や「（10）材料を工夫した活動[材料]」（題材総頁数の約8.7%の頁数）とも重なる内容がある活動である。「墨流し」「合わせ絵」などは、「版」表現でもある。また「版」表現の中に位置付けた「擦り出し」や「印画紙版画」「材料を工夫した活動」の中に位置付けた「蠟燭を使った描画（バチック）」や「炙り出し」には偶然性の要素もある。子供たちが楽しめる活動を考慮した結果であろう。

「（8）版を使った活動」は、前田藤四郎、泉茂、吉原英雄などから学び、沢野井自らが制作する中で構想したと言える。『版画のいろいろ－版画あそび』（1960年）で焦点化し、刊行した。「（10）材料を工夫した活動」は、「絵」の範疇をこえた内容も入っている。今日の小学校学習指導要領図画工作科「造形遊び」にも似て、子どもの興味・関心をふまえ、総合的な造形活動を意識したからなのかもしれない。

このほか、「（9）立体的な造形作品をつくる活動[立体造形]」（題材総頁数の約7.1%の頁数）は、完全に「絵」の範疇をこえ、紙や粘土などの立体制作活動となっている。これらの活動も、『造形のあそび－現代美術の創造』（1968年）で、当時の現代美術の潮流とともに整理されている。

学校教育の図画工作・美術科の授業では、メインにはなりにくい「(5) 認知機能を活性化するゲーム的な活動 [認知・ゲーム]」(題材総頁数の約8.7%の頁数)も登場させている。子どもの造形活動への意欲を高めるために、色彩や形に関わる内容に関して個人及び集団でのゲーム的な要素を入れ込んだようである。

## 5.2. 関連づけられた「芸術家」「文化遺産」「生活や社会の中の造形文化」

『新しい絵あそび』では、「題材」に関連させ、多くの「芸術家」、「文化遺産」、「生活や社会の中の造形文化」を取り上げた。同書では引用元を示したキャプションが十分に整備されておらず、筆者がその画像から推測した内容もあるが、以下に事例としてあげる。

### 5.2.1. <作品>または<逸話や関連した内容の記述>が挿入された芸術家の例

「題材」に、<作品画像>または<逸話や関連した内容の記述>が挿入された芸術家を、挿入された「題材」とともに以下に示した(生年順)。

- ・ポール・セザンヌ (1839-1906)  
(関連内容, No.50「まるみのある人体」)
- ・ポール・シニャック (1863-1935)  
(点描作品, No.58「モザイク」)
- ・ワシリー・カンディンスキー (1866-1944)  
(「薔薇色のアクセント (1926)」, No.48「けんび鏡」)
- ・アンリ・マチス (1869-1954)  
(関連内容, No.26「卵と角砂糖の話」)
- ・モーリス・ド・ブラマンク (1876-1958)  
(関連内容, No.26「卵と角砂糖の話」)
- ・パウル・クレー (1879-1940)  
(引き掻き絵, No.18「版画」)(「ダイアナ (1931)」, No.58「モザイク」)(線描を活かした顔, No.61「こわい顔」)(顔をスクラッチで描いた作品, No.81「ひきかき絵」)(「セネシオ (1922)」, No.86「自分の顔」)
- ・フェルナンド・レジェ (1881-1955)  
(レジェ風の静物作品, No.4「一壘へ二壘へ三壘へ」)(顔の作品と<トランプ>作品 (1950), No.11「この手は誰の手」)
- ・パブロ・ピカソ (1881-1973)  
(リトグラフ作品, No.18「版画」)(「牝牛」のシリーズ制作, No.91「簡単になる絵」)(顔を描いた陶芸らしき作品, No.85「円い顔」)(ピカソの菱形で描いた人体デッサン, No.58「モザイク」)(関連内容, No.84「三つの点の顔」)
- ・ジョルジョ・ブラック (1882-1963)  
(「水差しと鸚鵡 (1938)」, No.61「こわい顔」)
- ・ソニア・ドローネー (1885-1979)  
(「円環形の色面構成を中心に背景に矩形を配した口絵作品」, No.16「まるの遊び」, No.38「まるをふくらませる, まるを

- ちぢませる」, No.43「一分間で」, No.79「四角の輪」)
- ・ジャン・アルプ (1886 ~ 1966)  
(「地中海群像」(1941/1965), No.56「貝がらから」)
- ・マン・レイ (1890-1976)  
(印画紙版画作品, No.20「政子ちゃんの工夫 (印画紙版画)」)
- ・マックス・エルンスト (1891-1976)  
(擦り出し作品, No.18「版画」)(「マスク (1950)」, No.61「こわい顔」)
- ・アレクサンダー・カルダー (1898-1976)  
(関連内容, No.22「モビール」)
- ・ルネ・マグリット (1898-1967)  
(螺旋形の顔を持つマグリット風の作品, No.35「動いている美しさ, とまっている美しさ」)
- ・アンリ・ミショー (1899-1984)  
(吹き流し風作品, No.25「運動する絵」)
- ・アルベルト・ジャコメッティ (1901-1966)  
(立体作品, No.45「線の人形」)
- ・サルバドル・ダリ (1904-1989)  
(「メイ・ウエストの唇ソファ」(1937-1938), No.60「変な絵」)
- ・イサム・ノグチ (1904-1988)  
(「彫刻のためのエスキース」, No.80「レリーフ」)
- ・レオン・ボーク・スミス (1906-1996)  
(「コの字」形を組み合わせた抽象作品, No.24「使う絵」)
- ・ジャン・ルピアン (1910-1991)  
(直線を組み合わせた口絵の抽象作品, No.4「一壘へ二壘へ三壘へ」, No.68「旗」, No.92「あたりまえの絵」, No.103「箱の中の線」)
- ・沢野井信夫 (1916-1990)  
(口絵試作作品, No.5「線の自動車」)
- ・早川良雄 (1917-2009)  
(『壁画:句画集』(1956)の装幀, No.83「ポスター, そうてい」)
- ・山城隆一 (1920-1997)  
(「sunkist」のポスター, No.83「ポスター, そうてい」)
- ・山下清 (1922-1971)  
(「お化け」, No.72「はり絵」)
- ・マルセル・マルソー (1923-2007)  
(No.87「言葉のない劇」)

口絵に抽象作品を掲載したS.ドローネーとJ.ルピアンのほか、印象派、新印象派、キュビズム、シュルレアリスム、叙情的な抽象絵画、フォービズムなどに関わった欧米の画家が中心となっている。また、類別「立体的な造形作品をつくる活動」への対応もあり、J.アルプ、A.カルダー、A.ジャコメッティなど立体造形作家作品にも言及した。顔の造形表現を行う「題材No.84-87」の中では、A.マルソーの豊かな表情を参考にしている。

国内作家は、早川良雄、山城隆一など、沢野井の交友関係を中心に選んでいると考えられる。またイサム・ノ



グチは、沢野井が師と仰ぐ長谷川三郎と1950年以降、交友関係があることが知られている<sup>(24)</sup>。

### 5.2.2. 挿入された＜文化遺産＞または＜生活や社会の中の造形文化＞の例

「題材」に、挿入された＜文化遺産＞または子供たちの身の回りの＜生活や社会の中の造形文化＞を「題材」とともに以下に示す（題材No.順）。

- ・「へのへのもへの（へのへのもへじ）」（No.7「叱られて」）
- ・「大丸百貨店の包装紙らしき画像」（No.14「自由な大人」）
- ・「14世紀のヨーロッパの木彫レリーフ」「中国の剪紙」「イースター島の石像レリーフ」（No.18「版画」）
- ・「エルヒティオンという古城の内陣壁装飾」「バルコニーの垣」「円や三角を切り抜いたセルロイドの物差し」（No.21「同じ形の模様」）
- ・「岸壁に描かれた絵の画像」（No.25「運動する絵」）
- ・「石垣」「服地」（No.28「模様づくり」）
- ・「跨って滑る滑り台などの遊具案」（No.34「おもちゃをこうあんする」）
- ・「風車」「飛ばす玩具などの羽」「揺れる炎」「風に靡く布のような構成」（No.35「動いている美しさ、とまっている美しさ」）
- ・「大阪 岸和田城 庭園（八陣の庭）（1953）」（No.36「砂の絵」）
- ・「石ころ（表面を眺め、何かに見立てる）」（No.47「石の仏像」）
- ・「ネーティブアメリカンのつくった頭像や頭に被る飾り」（No.51「形の中の線」）
- ・「草木の葉や織物」（No.54「材質」）
- ・「麦藁の束や傘の模様」（No.55「選択」）
- ・「ヨーロッパの古い教会のモザイク画」「お風呂のタイル」「敷石」「卵の殻」「貝殻」「マッチ棒」（No.58「モザイク」）
- ・「フランス シャルトル本寺「聖母子」（ステンドグラス）（12世紀）」（No.59「ガラス絵」）
- ・「新薬師寺伐折羅大将（奈良時代 8世紀）」（No.61「こわい顔」）
- ・「暗号を感じさせるような石像」（No.70「暗号」）
- ・「明朝体、ゴシック体など活字の字体」（No.75「どちらが好きか」）
- ・「姫路城壁（17世紀）」（No.79「四角の輪」）

＜文化遺産＞は、それぞれの「題材」内容をふまえ、「フランス シャルトル本寺「聖母子」（ステンドグラス）（12世紀）」（No.59「ガラス絵」）、「新薬師寺 伐折羅大将（奈良時代 8世紀）」（No.61「こわい顔」）など古今東西の文化遺産から選んでいるといえる。重森三玲（みれい）（1896-1975）によって設計、作庭された「大阪岸和田城 庭園（八陣の庭）」（No.36「砂の絵」）は、同書刊行の3年前の1953年に完成したが、2014（平成26）年10月に国の名勝に指定された<sup>(25)</sup>。

＜生活や社会の中の造形文化＞は、「石垣、服地」（No.28「模様づくり」）、「草木の葉や織物」（No.54「材

質」）、「麦藁の束や傘の模様」（No.55「選択」）、「お風呂のタイル」「敷石」（No.58「モザイク」）など、『新しい絵あそび』の趣旨である子供の生活に寄り添い、抵抗なく造形活動が行われるように挿入されていると考えられる。当時の子供の日常生活の中にある石垣、敷石、麦藁の束、傘の模様などが造形活動に役立てることが可能だということを示した。その意味で、沢野井の美術教育構想にある「あそび」とは、子供の生活と造形活動との重なりと捉えることもできる。

また、「石垣」（No.28「模様づくり」）、「石ころ」（No.47「石の仏像」）などは、「暗号を感じさせるような石像」（No.70「暗号」）、「姫路城壁（17世紀）」（No.79「四角の輪」）などの文化遺産とあわせ、『石にたずねる』（1958年）で焦点化し、刊行した。

### 5.3. 各「題材」に見られる手法、技法の例

各類別の表現活動を主とする「題材」には、それぞれに表現方法があると言えるが、ここでは、手法、技法として顕著なものをあげる。

- ・「形を切断し、再構成」  
（No.1「四角を二つに」）、「No.2「円を二つに」）、「No.72「はり絵」）、「No.73「布のはり絵」）、「No.74「はり紙、きり紙」）
- ・「自動筆記法（オートマティスム）」  
（No.4「一墨へ二墨へ三墨へ」）（No.5「線の自動車」）（No.6「お空に馬がかけていく」（御弾きの軌跡を描く活動、No.13「することたくさん」）（皺からの絵、No.33「しわの絵」）（No.73「布の貼絵」）（No.90「三本の線と点と」）
- ・「身の回りにあるものを組み合わせて構成」  
（本、筆箱、消しゴム、No.12「なんにもすることない」）（スプーンと栓抜き、輪の中に小さな四角を入れた形、石垣のような形、No.28「模様づくり」）（草、糸、マッチ棒、輪ゴム、砂、ビニル紐、No.53「草、糸、マッチ棒」）
- ・「指絵（フィンガーペインティング）」  
（「フィンガーペインティング」口絵作品、No.15「いたずらゴッコ」）
- ・「擦り出し（フロッターージュ）」  
（No.18「版画」）
- ・「紙版」「拓本」「切紙版画」「霧吹き版画」「虫めがねで太陽の光を集め焦がした版画」「イモ版」「謄写版版画」「日光写真」「ガラス絵版画」など  
（No.18「版画」）
- ・「懐中電灯を使った印画紙版画」  
（No.19「写真機のいない写真」）
- ・「墨流し（マーブリング）」  
（No.23「水のはなが」）（No.35「動いている美しさ、とまっている美しさ」）
- ・「虫めがねや顕微鏡で拡大して見る（新聞、から消、兎の卵巣、雪の結晶）」

- (No.25「運動する絵」)(No.46「拡大鏡で」)(No.48「けんび鏡」)
- (No.71「暗号」)
- ・「吹き流し」
- (No.25「運動する絵」)
- ・「合わせ絵(デカルコマニー)」
- (No.29「右と左がおなじ絵」)
- ・「光を活かした活動(色セロハン, 試験管に色水)」
- (No.31「誰だ, いたずら者は」)
- ・「草の輪, 豆といった身近な材料でつくる」
- (No.34「おもちゃをこうあんする」)
- ・「砂をひき指などで描き, 絵の具をかけた後取り除く絵」
- (No.36「砂の絵」)
- ・「パチック」
- (No.40「ろうそくの絵」)
- ・「墨汁をつけた太筆で大きな紙に大胆に描く」
- (No.42「墨汁の絵」)
- ・「点を結んでつくる絵」
- (No.44「点の絵」)
- ・「トレーシングペーパーに草花を貼り, 光をあて影絵」
- (No.57「草花の影絵芝居」)
- ・「方眼紙や碁盤でモザイク画」, 材料としての「卵の殻」「貝殻」
- (No.58「モザイク」)
- ・「ガラスに墨汁で太い線を描き, 線の間に色紙を貼り付けて明かりに透かす(スタンドグラス風)」
- (No.59「ガラス絵」)
- ・「コラージュを通したディペイズマン(異なった環境に置くこと)」
- (No.60「変な絵」)
- ・「紙を半分に折り, 切れ目を入れてつくる」
- (No.67「くらしの工夫」)
- ・「端切れを使ったパッチワーク」
- (No.67「くらしの工夫」)(No.73「布のはり絵」)
- ・「ちぎり絵」
- (No.72「はり絵」)
- ・「スクラッチ」
- (No.81「ひきかき絵」)
- ・「消しゴムで描く絵」
- (No.92「あたりまえの絵」)
- ・「臍染め(口絵のテーブル掛作品)」
- (No.93「窓ガラスに絵」)
- ・「知育玩具(円, 四角などを分割しておいて元に戻す)」
- (No.98「形あわせ遊び」)
- ・「酢, 明礬, 蜜柑や玉葱の汁などで描き, 炙り出す」
- (No.99「あぶりだし」)
- ・「映写機で投映」
- (不要フィルムを透明のセルロイドにして描き映写機に映す活動。パラパラ漫画の活動。No.100「フィルムに」)
- ・現在の「パネルシアター」

(No.101「動く絵の黒板」)

・「水鉄砲に色水を入れて描く。暈しの活動」

(No.102「水鉄砲うで」)

ここに見られる多くの手法, 技法は, 現在の美術教育実践の場でも扱われているものが多いと言える。

このうち, 「形を切断し, 再構成」, シュルレアリスムで用いられた「自動筆記法(オートマティスム)」, 「身の回りにあるものを組み合わせて構成」の手法は, 複数の「題材」に使われている。これは, 「題材」総頁数の1/3を占める類別「(1)形を構成する活動」「(2)形を構成し, 描く活動」「(3)直線や曲線を描いて模様や絵にする活動」に深く関わる手法だからだと考えられる。

また, 「指絵(フィンガーペインティング)」, 「擦り出し(フロッタージュ)」, 「墨流し(マープリング)」, 「吹き流し」, 「合わせ絵(デカルコマニー)」, 「パチック」, 「スクラッチ」などは, 現行の検定教科書にも掲載されている。偶然性を伴い, 子供にとって意外性があることが集中して取り組みやすい技法群と言える。中学校や高校では, こうした技法をあわせてシュルレアリスムの「ディペイズマン(異なった環境に置くこと)」を強調してコラージュ制作をすることもある。

さらに「光を活かした活動(色セロハン, 試験管に色水)」, 「トレーシングペーパーに草花を貼り, 光をあて影絵」, 「映写機で投映」などは, 小学校学習指導要領の「造形遊び」の内容としても検定教科書でよく見かける題材である。

そのほか, 「虫めがねや顕微鏡で拡大して見る」ことは, 意外性があり, デザインや模様づくりのみならず, 造形表現活動全般の動機づけにも有効であると言える。

## 6. おわりに

前稿をふまえ, 沢野井信夫の発表著作や発表活動などその軌跡を補足した。その上で美術教育構想における主要著作と考えられる『新しい絵あそび』の「題材」一覧表を作成し, 10の類別を設けて分析した。その結果, 以下のような内容を確認した。

①『新しい絵あそび』では, いわゆるデザイン, 模様, 抽象絵画に関わる類別の内容が1/3(頁数比)を占めた。他の類別での活動も, 形の構成や模様を扱っている例があり, 主要な内容となっている。そして, その構想の基盤には, 沢野井自身の長谷川三郎への師事や自由美術展への出品, 大丸大阪店での出版やデザインの業務があると言える。

②沢野井の赤松麟作への師事や新文展・日展への出品が根底にあると考えられる「写実的な表現につながる活

動」の類別は僅か（頁数比4%弱）であった。沢野井の構想では、「あそび」を冠した子供向けの同書では、デザイン、模様、抽象絵画といった内容の方が写実的な表現より取り組みやすいと考えたからではないかと推測した。また生活の中にあるデザインや模様への汎用性を重視したとも考えられる。

③類別「鑑賞を中心にした活動」は1/5強（頁数比）あった。鑑賞活動単独の場合と他の表現活動の題材に向かうための動機づけとして設定している場合があった。また他の類別でも、同様に各題材に因んだ美術やデザイン作品、文化遺産、身の回りにある自然や人工物などを紹介した。

これは、沢野井が師と仰ぐ長谷川三郎『モダン・アート』（東京堂、1950年）などを参考にしている可能性もある。また、1954年には一般読者向けに岡本太郎『今日の芸術』（光文社）も刊行されており、今後、両書との比較、確認作業を行なっていくことにしたい。

④同書で鑑賞活動に活かした内容は、『石にたずねる』（1958年）、『カラーブックス 名画に見る裸婦の世界』（1968年、山川清と共著）に引き継がれ、まとめられた。

⑤「偶然性を活かした活動」、「版を使った活動」で扱われた手法や技法は、図画工作・美術科検定教科書に見ることができ、今日の学校教育実践でも用いられている。

⑥類別「版を使った活動」は、沢野井自らが前田藤四郎、泉茂、吉原英雄などから学び、制作する中で構想したと言える。後に出版した『版画のいろいろ－版画あそび』（1960年）で焦点化し、まとめた。

⑦類別「材料を工夫した活動」は、「絵」の範疇をこえた内容も入っており、今日の小学校学習指導要領図画工作科「造形遊び」に通じるものがある。

⑧類別「立体的な造形作品」は、紙や粘土などの立体制作活動となっており、完全に「絵」の範疇をこえている。これも、後に出版した『造形のあそび－現代美術の創造』（1968年）で焦点化し、当時の現代美術の潮流とともにまとめた。

⑨『新しい絵あそび』では、その趣旨である子供の生活に寄り添い、抵抗なく造形活動が行われるように子供の身近な造形文化の画像が挿入されていると考えられる。当時の子供の日常生活の中にある石垣、敷石、麦藁の束、傘の模様などが造形活動に役立てることが可能だということを示した。

また、学校教育の図画工作・美術科の授業では、メインとしては取り上げにくい類別「認知機能を活性化させるゲーム的な活動」も登場させた。子どもの造形活動への意欲を高めるために、色彩や形に関わる内容に関して個人及び集団でのゲーム的な要素を入れ込んでいる。

以上から、沢野井の美術教育構想にある「あそび」と

は、子供の生活と造形活動との重なりと捉えることもできる。

今後は、1950年代の長谷川三郎や岡本太郎の著作との比較確認や『新しい絵あそび』の発展と考えられる『版画のいろいろ』、『造形のあそび』の内容分析をふまえ、沢野井信夫の美術教育構想を掘り下げていきたいと考えている。

## 謝辞

本稿執筆にあたり、研究にご協力いただき、貴重な情報や示唆をいただいた次の諸氏にお礼申し上げます。（敬称略）

乾 健一（茨城県近代美術館学芸員）、金子一夫（茨城大学名誉教授）、橋爪節也（大阪大学教授）、矢部敬一（創元社代表取締役社長）、山野英嗣（和歌山県立近代美術館長）

## 付記

第4章の「題材」の図（画像）は、『新しい絵あそび』『題材』の内容と白黒挿入画像をふまえ、今回新たに試作した。試作図作成には、以下の奈良教育大学学生（2022年度4回生）の協力を得た。

永廣 千瑛子（図1－1から図4－2）

前川 令奈（図5－1から図10－2）

本研究は、JSPS科研費JP20K02885（2020-2022年度基盤研究（C））、図工・美術科題材と「包括的な学習」との関係性－美術教育における「遊び」概念から（代表宇田秀士）の助成を受けた。

## 註

- （1）宇田秀士「「遊び」を活かした美術教育実践の構想（1）－乾 一雄の美術教育の構想」『奈良教育大学 教育実践開発研究センター 研究紀要』22（通巻35）、2013年、pp.35-43。宇田秀士「乾 一雄の「遊び」を活かした美術教育の構想の特徴と実際の授業像－大阪市立大開小学校の実践研究（1978-1980）を中心にすえて－」『美術教育学』35、美術科教育学会、2014年、pp.137-152 ほか。
- （2）宇田秀士「沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想（1）－沢野井信夫の構想の背景について－」『奈良教育大学 次世代教員養成センター紀要』8（通巻44）、2022年、pp.27-36。
- （3）沢野井信夫『新しい絵あそび』創元社、1956年。同書は1966年に副題が「デザイン実習基礎併用」となった版が出た。
- （4）以下を中心に作成した。  
国立国会図書館サーチ、CiNii学術情報ナビゲータ、J-STAGE（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）運営電子ジャーナルプラットフォーム）、調布市 武者小路実篤記念館 収蔵品データベース  
<http://203.181.93.123/detail.php?rec=10326&from=3500>



- &keyword=&category=1&kind=&AD=&AD\_option=0  
<2022年3月31日アクセス>
- (5) 国立国際美術館Webサイト  
<https://search.artmuseums.go.jp/records.php?sakuhin=53172>  
 大阪中之島美術館コレクション 所蔵作品[http://jmapps.ne.jp/osytrmds/sakka\\_det.html?list\\_count=10&person\\_id=476](http://jmapps.ne.jp/osytrmds/sakka_det.html?list_count=10&person_id=476) <共に2022年3月31日アクセス>
- (6) 慶應義塾大学アートセンター/アーカイブ  
<http://www.art-c.keio.ac.jp/old-website/a/listing/takb101.html> <2022年3月31日アクセス>
- (7) 三木哲夫編『泉茂年譜』, 和歌山県立近代美術館編集『泉茂 版画作品集』和歌山県立近代美術館, 1998年, p.91-92.
- (8) 同上書, p.92.  
 植野比佐見「泉茂 ハンサムな絵のつくりかた 講演記録 2017年3月4日」  
[http://thethree.net/wp-content/uploads/2017/03/170304izumi\\_uenotalk.pdf](http://thethree.net/wp-content/uploads/2017/03/170304izumi_uenotalk.pdf) <2022年3月31日アクセス>
- (9) 前掲註7), p.95.  
 なお、沢野井と泉との交流はその後も続き、1959年8月「泉茂夫妻をアメリカに送る会」(大阪 産経会館)の発起人にも、早川良雄、森啓、山城隆一とともに名を連ねている。前掲註7), p.96.
- (10) 前掲註7), pp.94-96.
- (11) 前掲註3), 1956年, p.136.
- (12) 前掲註2), p.32.
- (13) 澤野井信夫編集『詩と版画 特集号—澤野井信夫作品集<山脈での出会い>』詩と版画社, 1986年, p.7. 西村貞一「あいさつ」, サクラクレパス社史編集会議(代表西村四郎)『サクラクレパスの70年—ありがとうを色に, 感動を未来に—』サクラクレパス, 1991年。
- (14) ギョーム・アポリネール「キュビズムの画家たち 1913年」, エドワード・F.フライ, 八重樫春樹訳『キュビズム』美術出版社, 1973年 (Edward Fort Fry, Der Kubismus, Verlag M.DuMont Schauberg, Köln, 1966), pp.166-176.
- (15) 東京国立近代美術館編『ドローネー展—ロベールとソニア』東京国立近代美術館, 1979年, 「年譜」頁(頁表記なし)  
 Website of TATE  
<https://www.tate.org.uk/art/artists/sonia-delaunay-993> <2022年3月31日アクセス>
- (16) 岡本太郎は、『今日の芸術—時代を創造するものは誰か』(光文社, 1954年)を出版するなど、1950年代半ばの時点で著名な存在であった。
- (17) 岡本太郎「ドローネー夫妻の思い出」『現代の眼 東京国立近代美術館ニュース』301, 1979年12月, pp.4-5.
- (18) Walter Vitt, Jean Leppien, Edition "libri artis" im Verlag Th.Schäfer, Hannover, 1986. S.5-7.  
 Website of the Museum of Geometric and MADI Art  
<https://www.geometricmadimuseum.org/portfolio-item/leppien/> <2022年3月31日アクセス>
- (19) 前掲註13), 澤野井, pp.9-10.
- (20) 前掲註7), p.94.
- (21) 宮武辰夫著, 改訂新版編集 創造美育協会静岡県支部『幼児の絵は生活している(改訂新版)』文化書房博文社, 2000年, 奥付。
- (22) 金子一夫『美術科教育の方法と歴史 新訂増補』中央公論美術出版, 2003年, pp.212-214.  
 東京文化財研究所「物故者記事 久保貞次郎」  
<https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/10720.html> <2022年3月31日アクセス>
- (23) 保坂喜美編『誇り高き哲人—追悼保坂富士夫』創元社, 1989年, pp.271, 299.金子一夫「巻頭論 山本鼎の生いたち—付論 国柱会との関わり」『近代画説』29, 明治美術学会, 2020年, p.11.
- (24) 横浜美術館「イサム・ノグチと長谷川三郎—変わるものと変わらざるもの」展(2019年) Website  
<https://yokohama.art.museum/special/2018/NoguchiHasegawa/index.html> <2022年3月31日アクセス>
- (25) 大阪府 岸和田市Website  
<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/70hachijin.html> <2022年3月31日アクセス>